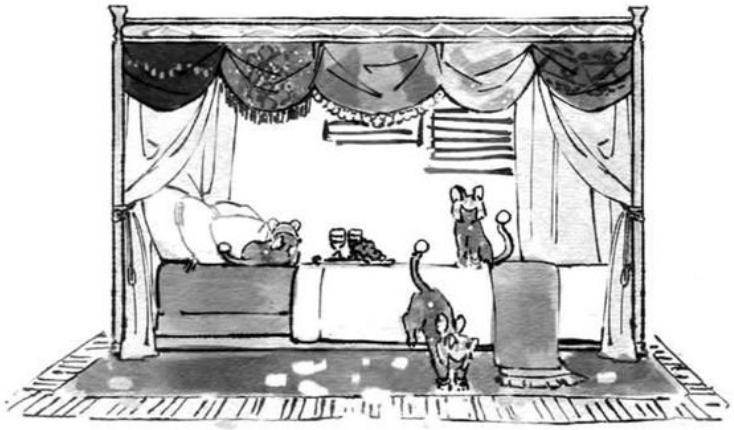

天地焦がれる金の睦言
R-18
Adult Only
2018.01-12
Re:tkciao
Gilgamesh×Ozymandias
Fate/Grand Ordar Fan book
Presented by tkciao

Contents



2018.01.28
神に映えるは毒の美酒 ——4

2018.05.03
毒牙を魅する猫の舌 ——54

2018.06.17
神酒に別腸あり ——108

2018.08.10
盟主在りて美観の夏 ——136

2018.12.30
疑似的ロストバージン 王の器 ——230

描き下ろし
天地焦がれる金の睦言——280



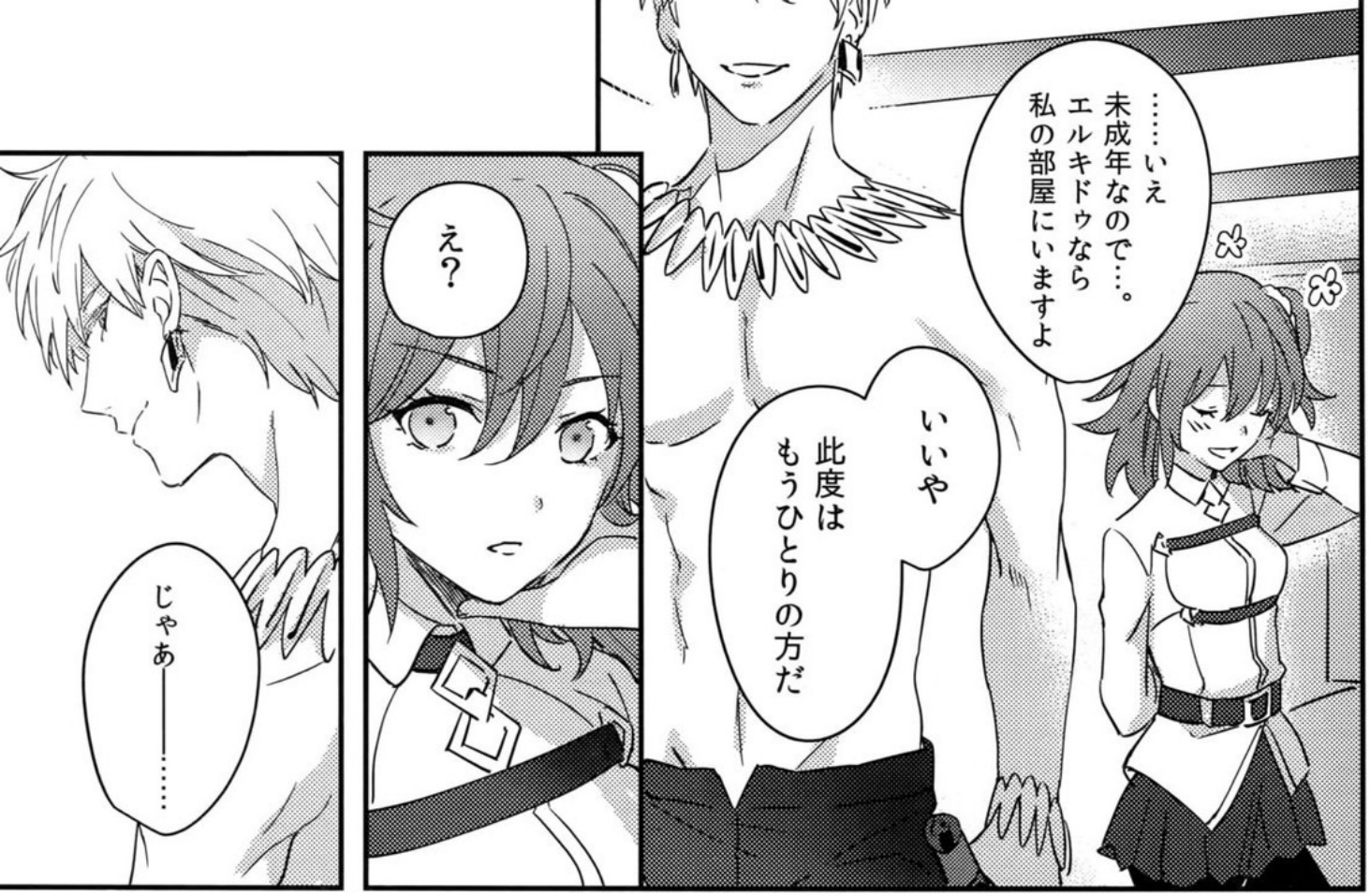
神に映えるは毒の美酒

2018.01.28


……
お　それはさっきのクエストでドロップしたものだね？
ダ・ヴィンチちゃん
これちょっと危ない感じするんだけど
見た目が普通すぎて
そうだなー　どれどれ……
あーなるほど　飲んだ者次第、かな
大丈夫　毒ではないよ


寧ろ至高すぎて逆に毒かもしれないな
紛れもなく極上の酒だ
それは君が飲めるようになったら
気になる相手と酌み交わしたまえ♪
それまでは大事にとっておくんだよ
ドキ
ドキ
ぬっ
気になる相手……
つまりそういう酒――……


あ
ぱっ
え、英雄王
横取りですか…
む
詫び酒だ
たわけ
～さっきのクエスト～
SUPPORT
我という王が
いながら後衛に
編成するとは
一体どういう
風の吹き回しだ
不敬だぞ
詫び酒て
だが
此度のレイシフトの
編成の面子自体は
褒めて交わすぞ
中々愉しかった
全く
召喚の質だけは
良い雑種よな
我は酒盛りに向かう
貴様もくるか？
同席を許すぞ

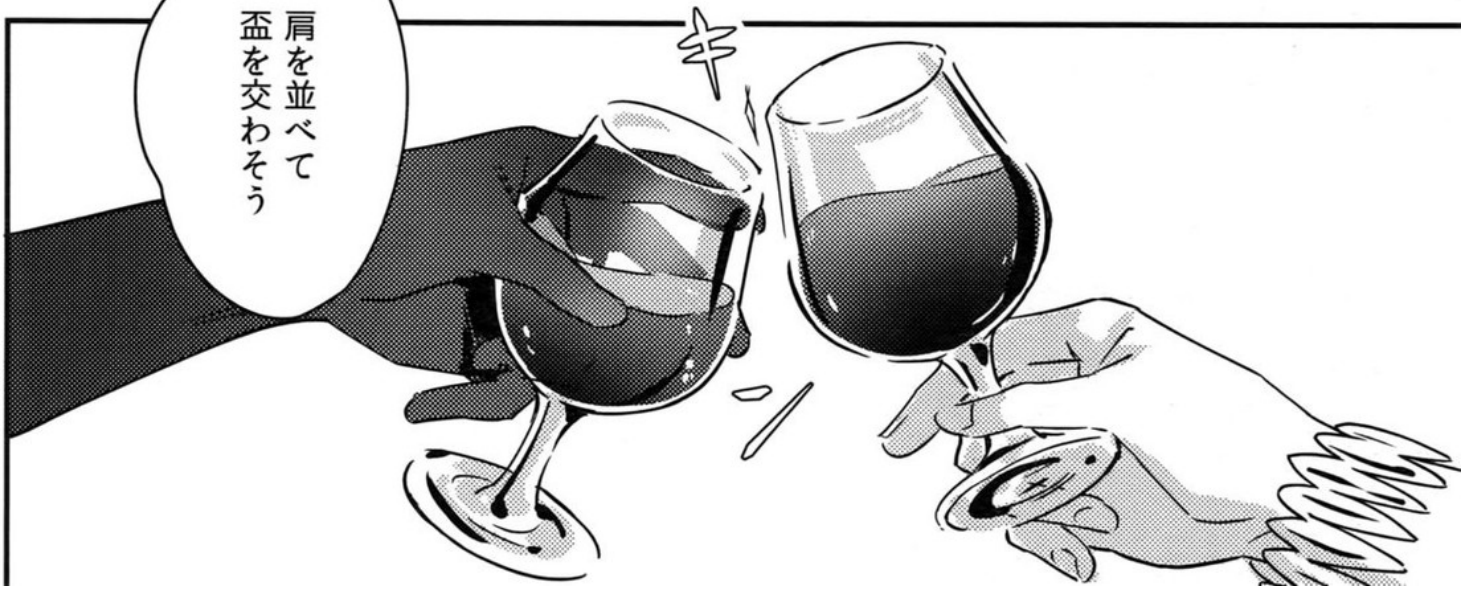

……いえ
未成年なので…。
エルキドゥなら
私の部屋にいますよ
いいや
此度は
もうひとりの方だ
え？
じゃあ――……


ハッ
待って英雄王
バッ
そのお酒――
キラ…
キラ…
行っちゃった…


ほう　黄金の
余と酒盛とは
珍しい
それは先の…


見るからに極上の酒だ
付き合え 太陽の
お前とは一度
酒盛を同席したくてな
語り尽くそうではないか


よいぞ
特に許す
そなたも
余と同じ
王の身


肩を並べて
盃を交わそう


ふむ
美味であるな


我が財宝に値する
美味さだ
小娘にしてはよくやる
ハ
これはマスターにとっての僥倖ではない
余
王がいたからこそ獲得できた報酬に過ぎん


それもそうだな！
やはりお前とは気が合う
元よりこの酒も我のものだしな
ハハハハハハ
同感だハハハハ
さあもっと呑め黄金の夜はまだ長いぞ
うむ
お前との語らいは悪くない
些か興が乗った
ハハ
そうかそうか
それは余とて同じこと
そなたの紡ぐ言の葉は心地が良い故
更なる語らいを許すぞ


何？
貴様
それは神王としての
引け目か？
口惜しいことに
余の肉体は脆弱故
在るべき理想には
程遠い
ピク…
ほおう…？
己を全能の神と
称しながら
其の肉体が憎いと
きたか
今の姿の貴様は
既に理想を手中に
収めた神王と
見込んだのだが
それは見当違いか？
全盛期と
称しては
おるがな…
我(オレ)はそうとは
思わんのだがな
？


我がそう思っているのだとしたら
貴様とは盃など交わさぬ
よもやこの期に及んで
貴様に期待した我に
煮え湯を飲ませると？
そんな劣弱意識を以て
半神である我を前に
己を神と称するか
不敬だぞ


……そうか
悪い思いをさせたな
訳
一番の余がこうであれば
二番のそなたの格も
下がってしまうな


貴様がそこまで
しおらしい王とは
思わなんだ
遺憾に
思うぞ太陽の
訳
一番の我に並ぶ
二番がこうもへこたれて
いると格のある王として
組んだ同盟が成り立たぬ


ならばこの我が
貴様の肉体の
強さたるものを証明して
己を認めさせてやろうか


！
ほう
ほうほう
ほほう！
すりー…
この余を抱いて証明すると？
なんとも莫迦らしい
そうさなあ酔った勢いというものだ
どうもいつもとは違う酔いの熱さがある
太陽神と讃えられる貴様との酒盛故に、か？
ふはは
それもそうやもしれぬ王の気質というものよな
良いぞ 許す
貴様の情けこのオジマンディアスが慰めてやろう
フン 逆だ
我(オレ)が貴様の情けを慰めるのだ勘違いするな


まあ確かに…
この肉体は
見た目からして
我(オレ)より少々…
劣っているとみた
ひとまわり小さいな
ニッ
だが
流石この我(オレ)と並ぶ程の
美しさはある
神王オジマンディアスか
面白い……


ハッ
余を盃とするか
中々に不敬であるな
まあそれで極上を
味わえるのであれば
許してやろう
ぴちゃ
ぴちゃ
コポ…
ふふん
この我(オレ)の口が
付くのだぞ
そら
引き締めよ
盃として
喜ぶがいい
ちゃっ
ッ……


くは……
これはまた
酔狂なことをする
む
我(オレ)の台詞だぞ
肉体を盃とされて
善がっている…
それこそ酔狂で
あると思うがなあ
ッ……
すす…


ぴちゃ…
フン
は……



ん

ちゅう

貴様

誰の許しを得て――……

ハハ

こういうことなのであれば…

ニィッ

この酒は

貴様の肉体の方がよく映えると思うのだが…

な？

うう…

ぶーっ

ゆっ


ハハハ それは
誤魔化したつもりか
……
話のわかる
やつめ！
そなたの肌は
赤がよく映える
時に
神の血を継ぎ
それを象るというのは
罪なものよな
くくく
お前のそういう
諧謔(かいぎゃく)の視えぬところが
筆舌に尽くしがたい
その迂闊さも
度がすぎると
足をすくわれるぞ
ふはっ
そなたに
言われてもなあ…
んっ


ちゅっ
んッ
ごそ
ごそ
ちゅく
コクンッ
ふ……
スゥ…
ぐ
いっ
ふはッ
良いぞ
ますます
興が乗った
♪
フぷ…
その矜持を
保ったまま
乱れる貴様の
姿も悪くはない
んッ…？
ピクンッ
おい……



やはり
その酒…
少しおかしいぞ
やはりとは？
まあ良い
集中しろ
くぷ
ぷ
黄金の
ぬち
くちゅっ
シュッ
シュ
ごぷっ
はぁっ
待…て…
ビク
はっ
急くでないッ…！
ビクッ
はッ
太陽の……
お前が口にした
神を象るという
殊勝たる罪深さは
神王ならば
自覚のひとつも
していような？
ふっ
いかん
ふっ
くちゅ
ぐぷ
ぎゅっ
この余が
こんなに早く
達して しまう
とは


ッ――……！
ふはははは！
よく映えるではないか
この肌は
ぬと。
……
ふっ…
……


……
貴様の趣向は
余には
到底理解出来ぬ
ぬかせ
チュリ
貴様と同じことを
したまでよ
むう…
随分と余裕だな
その態度
些か気に障るぞ
黄金の


余裕がないからこその強がりなのか？
……
ぐりっ


この余を前にして
気丈に振る舞う暇があるなら疾く済ませよ
そして貴様が言った通り
余の肉体の魅力というものを証明してみせよ
たわけ…
証明するのではない
証明させてやるのだ
貴様の魅力をひきだし
導くのはこの我(オレ)だ
ハハ
よく言うわ
ぐいっ
チャリ
随分と都合の良い
言い換えだな黄金の
余には斟酌(しんしゃく)とでしか
捉えられぬ

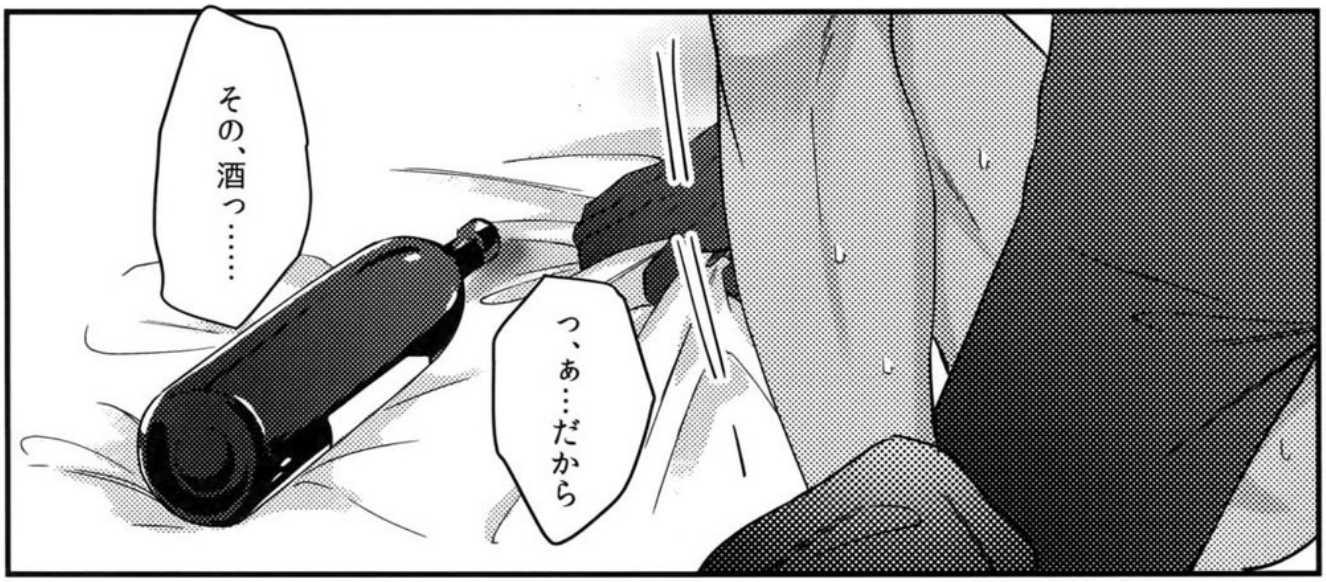

戯言は不要
早く……
寄越さぬか
ッ……
ふっ……
いいだろう



ぴと…
ッ……
ずっ……
ぐ――……！
う
ビク
ビク
ゆる
ゆる
はっ…随分と、蕩けておるなぁ…
まるで女のよう、だ
ッ、ええい
貴様の煽りはもう飽きた
好きにっ、動くがいい…
ふ……


ぬちぬぷ
ぬるっ
ぢゅうっ
ん
ッ
ッハ
おいおい
物欲しそうに
蠢くでない
ぱちゅん
くれてやってる
というに
ッ
んんッ！
っ
どうした
ン
声を殺そうと
するなど
お前らしくもない
んっ
ッ……！
ッ
おかしいのだ
こんなッ…あ
熱い
おかしい？何がだ
我(わし)の腰使いに
ついてゆけぬ故にか？
ち、が……
ゆさ
ゆさ


魔力が
溢れてっ……
酔っている故…
など理由にならん
ふぅ
うん？
魔力が制御出来て
いないようだが？
ビクッッ
ッ……
ぞく…


その、酒っ……
っ、ぁ…だから


ああ
何かあるようだな
この酒は


恐らく
魔力を過剰に
分泌させるものとみた
？
魔力の過剰摂取
がてらに……
いや
それ故か？
切れたか
感度まで
良くなると。
成る程 この酒の
醍醐味とはこの
ことか
はぁ、
なんだと…？
はっ…
よよ…
ならば 貴様も
制御出来ていない
はずだが？


ぽぃ
そうさなぁ
効果には条件が
あるのかも
しれぬ
う
あッ…！







じゅぷ
ずちゅ
ずぽっ
はっ
ん、あッ ア
ぞくっ
くッ
声も抑えられなくなってきたな太陽のっ…
あ
ぱちゅ
ぱんっ
あぁッ
ッ
効果の条件、だが
今のでわかった
理性の欠落だ
どうやら理性が少しでも欠けると次第に効果が現れるようだ
それが貴様の肉体で証明されているぞ
ほら
ずぷんっ
ぴゅる
ガクッ
余が
斯様な体たらくに陥るなど――…！
ガクッ
あっ


ッ
理性が欠けるほど濃くなるぞ
くちゅ…
ふ
あ……
わかるか？
これが今の貴様から分泌された魔力だ
しろ…
ぬと
……まあ…
己が体液でその濃さも分かるまい
ぐちゅ
ぐち
ア
っ
神王を嬲る者の指ではないか
本来なら噛み切るべきだが…
今はそんなことも考えられぬか？
全く…
無自覚なのも罪なものよな
この酒が貴様をその状態にしたのではない
貴様がこの酒を以て己を貶めたのだ

半神の我(オレ)を
前にして
どこか揺らいだ
のだろう？
人の子よ

憧れか？
嫉妬か？
劣等感か？
まあどれでも良い
斯様な心情で
理性が揺らいだのも

我(オレ)は視えた

……

感度の我慢強さは
我(オレ)の方が一枚上手
だったようだ
まだ、
飛ぶなよ……
オジマンディアス

ビクッ…



ッ
はッ
あっ
う
ぐちゅ
ぱちゅ
ぱんっ
ぱんっ
ガクッ
太陽の
我が貴様を同じ神として認めたなどと思っているのであれば それは謬見よ
はーっ
ぐぽっ
我は貴様の言う神ならではの肉体の強さなどに興味は毛頭ない
う、ぐ
ぐりっ
貴様のマスターでもなく友でもなくそれ以上の関係でもなく
んぁッ
同盟相手というだけの関係にある我に己が真の引け目を明かすとは一体どういう理屈だ？
貴様とあろう者が我に同情を求むか
ビクッ
はッ…
あ、ぅッ黙、れぇ…！


我に神の血が通っている故に、か？
とんだ筋違いよな
頂点を極めることと全能を求むことはワケが違う
なんにせよその強さたるものは求むも何も生まれながらに我が手中にある
わからぬか？太陽の力を有しながら己を虐げている今の貴様は確かに脆弱だ
肉体に限らずな……
な…に……
であれば貴様を見込んだ我が手ずから喝を入れてやるまで
貴様が誉れと慕う美酒に酔えば其れで杞憂を毒することが出来よう



あッ
ん
ア
んッ、う
あぁッ
はッ
く
ふッ…
あ
深ッ、
ぱんっ
ぱん
ぱちゅ
ぱぷ
ぎゅっ
ぎゅ
ぎゅッ
ぎゅッ
ッ
出すぞ
しかと受け止めよ
！
い、らぬッ
うあッ
神に成り損ねた
貴様の、などッ……！
は
これ以上は――……！
ぞくっ
ぞく





ビクッ
ッ!
ぐぐ〜っ
びゅく
きゅうっ
ガク
はッ
あ!?
ガクッ
ふッ…!
んッ…
びゅく
う
あッ
びゅるる…
ビク
はぁッ…!
ビク
ずるっ…


……
はッ…
はぁっ
ビクッ
ビクッ
ビクンッ
はッ
ア
ニヤ
果てたか
己の毒も
吐きだせずに
ぬるっ
んんっ…!



こっちはまだだろう
我が吸い出してやる
此度は毒を吐いて果てよ
ちゅぷ…
あ
はッ…！
待…！
チッ
このッ…！
わしっ
ぐいっ
ぴゅぐッ
！
はぁ
はぁ
……貴様……


はぁ…
何が
毒だと？
神たる余の
肉体から創り出された
魔力だ
それを毒と抜かすか…
この不敬者が
ゴッ
その気質を
思い違いするような
人の王になど
神王の魔力を味わう
権利はない
ハッ……


そうだ
我(オレ)は貴様のその強さを好いておる
欠けた理性を直ぐに取り戻せないようなか弱さはその精神が掻き消している
貴様の言う全能の神を超える存在ならば肉体がそれに凌駕するのも当然至極であろう?
それでこそ我(オレ)が求む王というもの
この理(ことわり)が分からぬのならばお前の言う神王という位は伊達に過ぎぬと?

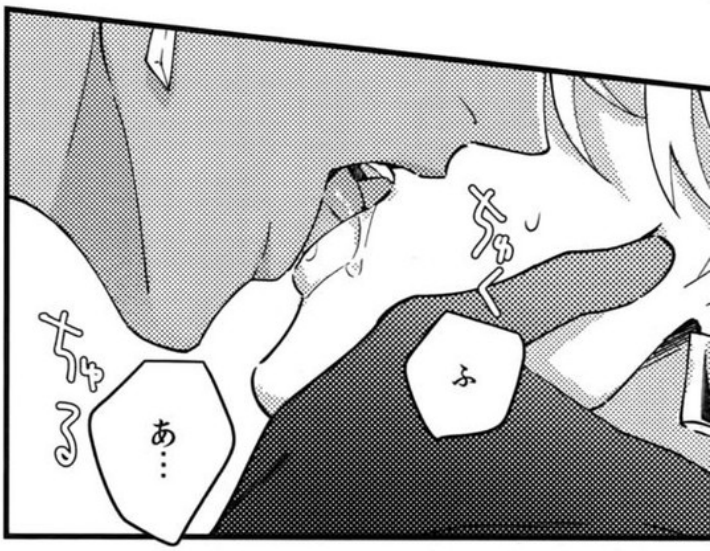

それに
この魔力も…
ごし
我は毒と言ったが
それは魔力を制御
できない状態にあった
貴様にとって、だ
すり
勘違いするな
太陽神と称えられた
王の肉体から
創り出された魔力だ
ぺろ
魔力を求む
サーヴァントからしたら
極上の神酒同然だろうが
ぎゅう
……
…ええい何故黙っている
この我が我ながら
珍しく褒めてつかわして
おるのだ
なんとか言え
貴様なら
当然であろう！とか
そんな反応ひとつや
ふたつするだろう
フッ
応えないというのなら
万死に値するぞ――…！


ふわ…
なッ……
ぶわっ
貴様何をする！
わしゃ
わしゃ
クッ…
ハハハハハハハハハ！
拭いているつもりか！
いや、なに
余を見くびっていると
思いきや
逆に敬っていたとは
偏屈な貴様の
言の葉を実に滑稽と
感じたまでよ
はぁ？
自惚れるのも大概に――…




や……
やめよやめよ
そのような顔！
それこそ
貴様らしく
ない！
！
……いくら余であれ
応えが辛辣になるような
口説きをしたのは貴様よ
そ…そもそも
至極当然である
応えを口にする
までもない
斯様な問題では
なくてだな……！
フッ
どうした？
貴様にしては
落ち着かんな


ンっ
ちゅく
ぐ
ちゅく
んむ…ッ！


ちゅく
ふ
ちゅる
あ…


はッ――……！


……
魔力が濃いな


……！
ばかな
ぱっ


ばさ
無意識とは己を貶める……だったか？
そうだなその通りだ
ところで一体どこで理性が欠けたのだ黄金の
ぞくぞく
〜〜〜〜ッ
ぐいっ
離れよ
どうやら過剰評価だったようだ
たわけ
貴様の余に対する評価など一割にも及ばぬその程度で余に惚れるとは何事だ！
お…おのれ
先は我(オレ)の教えを口説きなどとぬかしおって顔を赤らめたと思えばこれか！
斯様なギルガニズムが許されるのは我(オレ)だけだッ!!
思わせぶりも甚だしい！


褒め称えるのであれば
貴様のその眼で
余の全てを視て
この強さに
一層魅了すると良い
それとも何か？
全てを視てしまえば
目が昏み
その理性が完全に
欠落してしまうほど
貴様にとっての余は
ひどく魅力的で
至上であると？
っ……貴様…
次から次へと
思い上がるのも
いい加減に…！
ふはは
返せる言の葉は
それだけか
よし よし
まあ許せ黄金の
此度は余も寛大故


それに…
余の魔力が極上の神酒
同然ならば貴様の魔力も
極上の神酒なのだろう
先は我が魔力が
あったために
うまく味わえなかった
のでな
くぷ…
ぐいっ
存分に頂くとするか
理性の欠けた
半神の王の魔力も
さぞ美味かろう


神たる余に歯向かう
不敬の報いと思え

おのれ……！

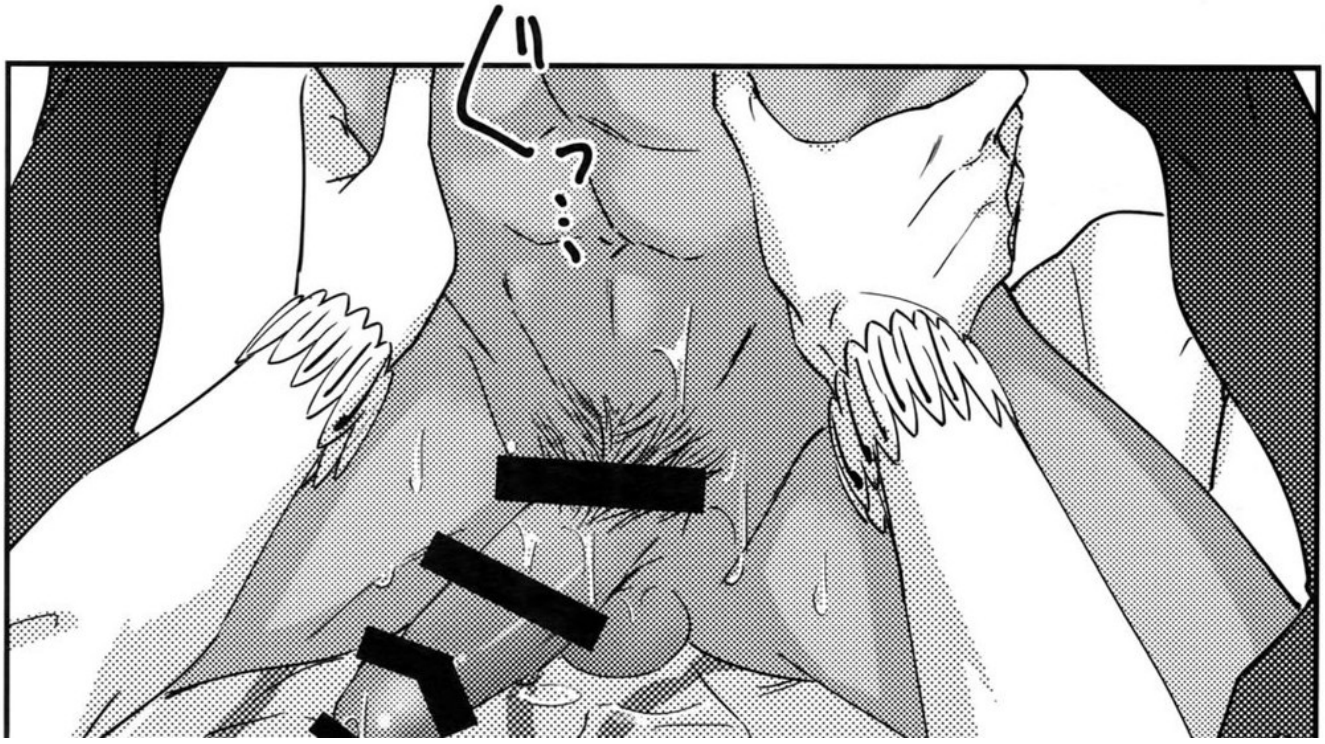


ハハ
黄金のッ
はっ
はッ
酔いが回っているとは言え
あ
はッ
あッ…！
ぱん
ぱちゅ
ぱちゅ
はんっ
感度が良すぎるのではないか？
ぐっ
じゅぷ
ずぽ
ずぷ
ずぢゅ
ずっ
た
わけぇ！
貴様とて先はそうであったわ！
ンー？
ふーッ
ふっ
ぐすっ
余は生娘（きむすめ）かのように頬を赤らめ瞳を潤ませる醜態を貴様に見せた覚えはないのだがなあ
泣くでない
貴様ッ…
泣いてなどおらんわ!!
己（わきま）が立場を弁えておけよ…
その気に障る態度も謹まぬのであれば我（オレ）が直々に灸を据えてやろ、う
あッ…
ふはは
その顔では説得性に欠ける



きゅうっ
ビクッ
あ
ああッ！
はぁ…
しかしっ…こうも…
貴様が情けないとなると
余も些か呆れる
ぞく…
なんという
声を出す
ふっ
う
まこと…
全ての悦を識る体とは
あくどいのではないか？
……。
この状況で余に
鳴かされているようでは
貴様も不服であろう？
はぁっ
そうさな…
どうだ黄金の、
ッ？


此度は真に
余に寵愛(だ)かれてみぬか




すぽんっ
ッ！
ぐ
んくッ
ガッ
ずぽっ
ぐぽぐぽ
ぐぽぐぽ
ぐぽぐぽ



それも

う

ガク

ガク

ビクンッ

あ、ああッ……！

死を以て、だ





……して
貴様まだ果ててておらんな？
どれ
余がひとつ
尽くしてやろう

おのれ余計な
お世話だ！

END


黄金の、貴様…
自分自身が
苦手とは誠か
むっ
よもや
それは引け目
ではあるまい？
……
……
当ッッッッ然
苦手だとも！
我(オレ)が
美しすぎて罪
故にな
ギルティ～ン
わかるぞその気持ち
余とてそうだ
ミートゥ～
流石に
呆れるな
同情
ふふ
本音と建前が
逆だぞ
一番たる王の
理とは
引け目など真に
顧(かえり)みないことよ

もっと他に理由がある

初ギルオジ本になります。
己の強さを誇示しながらコンプレックスを引きずるオジマンに渇を入れるギルガメッシュな話でした。
同盟相手を選んだギルガメッシュだからこそ相手に対する厳しさというものがあって欲しいです。
オジマンの引け目は物凄く強い存在であるからこそ惹かれるところではあるのですが引け目を顧みない強さを持つ王が大好きな王。



毒牙を魅する猫の舌

2018.05.03


太陽の
我(オレ)の断りも無しに
王の間に踏み入れた挙句…
なんだ
その機嫌の悪さは
我(オレ)の前でとる
態度ではなかろう
ダ・ヴィンチちゃんが
側室に応えてくれぬ
ぶふっ


あのなぁ太陽の
此処は王宮ではないのだ
さすがの我(オレ)でも分かる
貴様の側室に応えぬ美女もおればこの我(オレ)の求愛に応えぬ女もひとりやふたりおるわ
ん、ああ騎士王の
言わなくてよい


召喚に応えてやったのであれば儘ならぬ環境も承知の上だろう？
時に寛大な心を持つのも王としての弁えである。とキャスターの我(オレ)が…
うむ……
然り…
だがなあ
こうも刺激がないとやはり退屈ではないか？


なに？
我(オレ)がわざわざ案内に出向いてやったレクリエーションルームにも飽きたと？
斯様(かよう)な愉しみではない


ふはっ
やはり
欲求不満か！
寵愛く女が潤沢で
ある程その欲も
つり合っていくと！
誠に旺盛であるな
貴様は！
しかしなあ
太陽の
我がそんな貴様に
思い遣るとでも？
はぁ
そうだったな
貴様は捻くれている
割には素直従順な
王であったな
談ずる
相手が違った
素直従順で
結構
とぽぽ
手に入らぬ
美しさというものが
あるだろう
お前とはそれを
愛好する趣が
合わぬだけのこと
まあ…
飲め
酒をあおりでもしたら
気が晴れるかもだぞ


ほか
ほか
む……
ん？
温葡萄酒は
不得意か？
コト
いや
別に……
そうさな
貴様との酒盛りは
やぶさかではないが
今宵は斯様な気分でない
男色に興味は
引かれぬのか？
……
……はぁ
その様だと
いつまで経っても
満たされぬ欲に
耽溺（たんでき）している
ようにもみえる
実に
気難しい男よ…


要は
その欲さえ満たされれば憂いも晴れるということよ
王であろう者が一人で慰めるなど愚行も同然
そこだけは同情してやろう
であればこの我(オレ)がその欲を満たしてやってもよいが？


……黄金の
貴様なにやら勘違いしておらぬか？


余は貴様と情交に及ぶ為に出向いたのではないぞ
スン…
余が常 性急かつ貪欲とでも？
貪欲だろうが


ふむ…
しかしまあ…
男色に興味を引かれぬわけではない
王故な
もとより幾らか相手はしておる
貴様が望むのであればそれなりに寵愛を与えてやるが？
ドサッ







きゅぽっ
くいっ
ぐっ
ッ……
もそ…
ん
ふッ…
ちゅく
ちゅ
は……
コクンッ


……
誰が女役をしてやる
などと申した
ッ…
我は
寵愛かれる
貴様に興味を
引かれる


我とて人故な
寡欲という
ワケではない
そも王である
与えるのは
至極当然
……


貴様の尊大は
時に慢侮にも
なる
少なくとも
我の前ではな
己の間抜けた
本心を
恨むがよい


さて……
数多の美女に
寵愛を与えた王とは
如何様な嬌声を
上げるのやら
此度は特別に
心を躍らせる
とするか


…ハハ
よもや
怖気づいたか？
寵愛かれることに
違うわ
その初々しさに
免じて不敬を
不問としよう
……。


して…貴様の場合
寵愛を与える
というよりかは……
いや言うまい
確か初夜権が
どうこうと…
その欲深き瞳
受け容れてやるぞ


どやっ
それでこそ
格のある王
余の同盟相手
として相応しい
※一番と称されたのだと
思っている


媚薬とはな
しかし…ふむ


貴様は
図々しいにも
程があるが…
この余を前にしながら
翳りひとつ見せぬ
その矜持は
褒めてつかわそう



随分と回り諄いことをする
ぱっ
くいっ
おお
よい飲みっぷりだ
いっ
に
その気になったか――…
ッ！
ガばっ
っ
ん…！
ちゅっ
ちゅく
余の前では慢心を捨てよ



便…物事をするのに
都合のよい手掛かり


王の中の王
神王オジマンディアスだ
見くびるなよ
この情交を以て
貴様の見る目
というものを
革めてやるぞ？
すり
ふははっ…
よい……
益々気に入った


少しでも
雌猫のような
真似をしてみせよ
その首を
切り落として
くれる
ハハ…
上等だ


ん
はぁッ……
おい…
黄、金の…
貴様
余裕が
無いくせして
前戯など
諄いわ…！
ビク
ビク
ろくに触れても
おらんというに
もう限界か？
ぬと
ハっ
音を上げるには
まだ早いぞ太陽の
……
限界なのは
貴様の方だ、と
申しておる
カチャ
カチャ


すりっ
この余が
貴様の前戯
ごときに
屈するとでも？
チャリ
言ったはずだ
貴様は余を支配
出来まいと


ふッ……
よい心構えだ
では
限界かどうかは
貴様の肉体に
問うとしよう
すりっ


されど、前戯だ
ゆめ忘れるな
ッ……
くにゅ


ッ…
は……
レロレロ
レロ
ふッ
ピクン


ふは
はぁ
我(オレ)の財の効果に
耐えるのは
神王であれ
難儀であろう
はぁ
手が止まって
おるぞ


そら、
果てよ太陽の
その程度の
醜態であれば
我(オレ)は許すぞ

誰が……！
はぁ
はぁ


……


イけ
よし
良く出来ました、
というヤツだ
素直になった
分だけ褒美を
やるぞ
……


フン
その言の葉…
下手な
一芝居よな
にぃっ
この余を前にして
猫なで声をかけるとは
正気の沙汰でないこと
くらい分かっている
ぱか
雌猫の真似事を
するなと
望んだのは
貴様だろうが


ん……
ぢゅる
じゅっ


はは
今宵のお前は
中々に気が
立っておるな
その面も一層
愛いらしく
見えるぞ


もうよい
少し
黙っていろ


！
くしゃっ


ぞくっ…
くッ……
ぢゅる


ふッ
じゅ
ちゅぷ


……
!!
じいっ
何だ先から
ぽ
す
忙しいやつ…
はむ
にゅぷぷぷっ
ふ…
あっ…
はぁっ…
おい…
ぢゅる
じゅぷ
貴様
それ、
はっ…



はっ
はぁっ
ぢゅっ…
もはや
娼婦だろうが…！
む
ぺろ
王と娼婦を同じにされては益々見る目を革めぬとならんな？
じゅぷ
ガク
ぐっ
ガク
ん
ぢゅる
んんッ
う
ガクッ
あッ……
は……
ガク
ちゅぷっ
じゅっ
もうじきか


ビクンッ
〜ッ…
どぷっ
!
げほっ
ごほっ
ばっ
が
……!
何故咳き込む
あ
ふ
いッ…
はっ
はぁ
熱い
フフ…
ははは……
ふはっ……



ぶはははははははははははは

おいおい！

よもやとは思ったが貴様…

クククッ…！

猫舌にも程があるわ！

ありえんだろ――

む

こら

ぐっ

ッ

ふ

んッ

ちゅ

ちゅぷ

ちゅく

ッ

ふ……


は……
確かにこれは……。
貴様の財(薬)は
度が過ぎるのだ
これほど熱く
感じとれても
筋は通るはずだが
くはっ
然り！
いくらでも
賛美せよ
褒めておらん
して
太陽の…
その財のことだ
熱(ほとぼ)りが冷めぬ
であろう？
……許す
儘ならぬことだが
それは我(オレ)もだ
獣が如く余を求む
貴様も見物(みもの)よ
……
身の程を弁えぬ己を
悔いるでないぞ
する…









ずちゅ
ぱちゅ
ぱん
ぱん
ぱちゅん
ぬぷ
ぬぷ
ッ
ん…
はぁっ
貴様の中はよい…
太陽神の肉体とはやはり格が違う
我(オレ)の身体とよく馴染むな…
チッ
……喜ばぬか褒めてつかわしておるのだぞ
ぐいっ


余の
玉体は
貴様のそれと馴染みを佳くするが為に創られたものではないっ……
斯様な賛美は
あっ
貴様のことだ
厭味と捉えよう
だが
多少の不敬
許すぞ
余は
寛大であるっ…
う
あ…！
ずーんっ
寛大には見えんな！
ずぷっ
じゅぽっ
ずちゅ
気丈に振舞うでない
それこそ興が削がれるわ
あッ
は…！
ッ
ハハ…
黄金、の
無理をしておるのは貴様の方だろう


余を
おぉ
手中に収めたくて
仕方のない顔だ
神たるファラオを
獅子の仔同然に
手懐けられるとでも
思ったか
ぐりんっ
！



ずぷぷぷっ

うッ

ぐ……！

この我を挑発するにしては随分と肝が据わっておる

貴様でなかったらその舌を抜いてくれたわ

我をここまで煽れたのだ

己を誇りに思えよ

ずっ

ーーッ

ビクッ

ぱんぱんっ

ずぷぷ

じゅぷ

あ

はぁッ

う

あッ……！

ガク

ガク



んんッ
ぱん
う
くッ…
ぱん
ぱんっ
ずっ
ずぷ
ずぷ
貴様が我が手中に収まらぬこと
特に遺憾とも思わんぞ？
ぱちゅ
うあッ
ずっ…
寧ろ
故に
はっ
蒐集家(しゅうしゅうか)として血が騒ぐ
あ…
貴様の虚勢がどれ程耐えられるか
ぺろ
我(オレ)は試みるまで


…ふははっ
とんだ
問わず語りを…
余が
貴様の衷情を
引き出したいが
為に
わざわざ
斯様な態度を
取っているとでも
思っておるのか?
余は飾らずに
貴様に寵愛かれて
やっているだけだ
自ら弄されて
どうする
それでも尚
優位に立とうと
余を煽るとは
飽きれるな


ほう？
叩く戯言は
泣き言ではなく
強がりとするか
よいぞ
好きなだけ
抜かせ
王でありながら
殊更(ことさら)に成した辛抱を
褒められたいと？
成程貴様は
手に汗を握りたい
趣向にあったか
であれば
その通りに
してやるぞ
我(オレ)に見限られぬ様
精々励めよ


あつい
あつい
熱い——
丸飲みにされる
これでは獣ではなく
まるで——
なっ…ま…


おう
ごんの…
！
ん
ぺろ
ちゅっ
ちゅく
ふ
あ……
……
なんだ
らしくもない
真似をしおって
よもや
この期に及んで
せがむか


いいや……
毒牙(どくが)を持つ口腔とは
常毒で満たされておるのだろうか、と


……
はは……
この我(オレ)を…蛇と
まるで子供のような皮肉を口にする
すりすり



ずぎッ…

貴様は余程

我(オレ)に如何にかされたいようだな？


ッ…
太陽の
貴様であろうが
我の寛大にも
限度というものがある
不敬も
そこまでに
しておけ
思い上がるなよ
もう
もたぬ
このままでは――…
果てる、か？
つまらん
もっと
愉しませろ



ぎゅ
うっ
ッ!?
っ
あっ
この
ガクッ
離
せぇっ…!
ガクン
ビク
すぷ
すちゅ
ビクッ
そら
果てたいのであれば
強請ってみせよ
雌猫のようにな


媚びて我(オレ)を幻滅させるか
このまま果てぬまま快楽に朽ちるか
どちらの死を選ぶかは貴様が決めろ
……ハ
その応えは貴様に決めさせてやろう
蛇の生殺しは人を噛むぞ


ぐいっ
うあッ……！
ぴゅくっ
ぽっ
びゅっ…
待っ
黄金の
もう
達した
あっ
あ！
ぬぷ
ぬぷ
ぬぷ









ここまでされても尚許しを乞わぬとは
蛇に噛まれ朽ち縄に怖じることのないその度し難い態度
ずっ
んっ
大いに気に入った
うッ
ずぷ
ずんっ
ん
ふははっ
王を寵愛くとはこうも厄介な事だったとはな
感謝するぞ太陽の
真新しい愉しみを見出せた
はぁ…
ぽん
ぽん
我の精はその礼として受け取るがよい
いかん
ぞくっ
ふッ
ぞく
またっ……
んん


んっ
ぱんっ
ぱちゅ
んんっ
ぱちゅ
ふッ……
ぱんっ
ずぷんっ
ずんっ
ぱん
ぱっ
ッ
はッ……
ビクビクッ
ぐ
太陽の…っ





あ、ああーーッ！
ッ…!!
ビクーッ
ビクッ
どぷっ
ッ
はっ
う
ぶるっ
びゅるっ
びゅく
あっ
あ…！
にゅぽ
っ…！
どろっ…
……
はぁ
はぁ
はっ
はぁ
……
はぁ

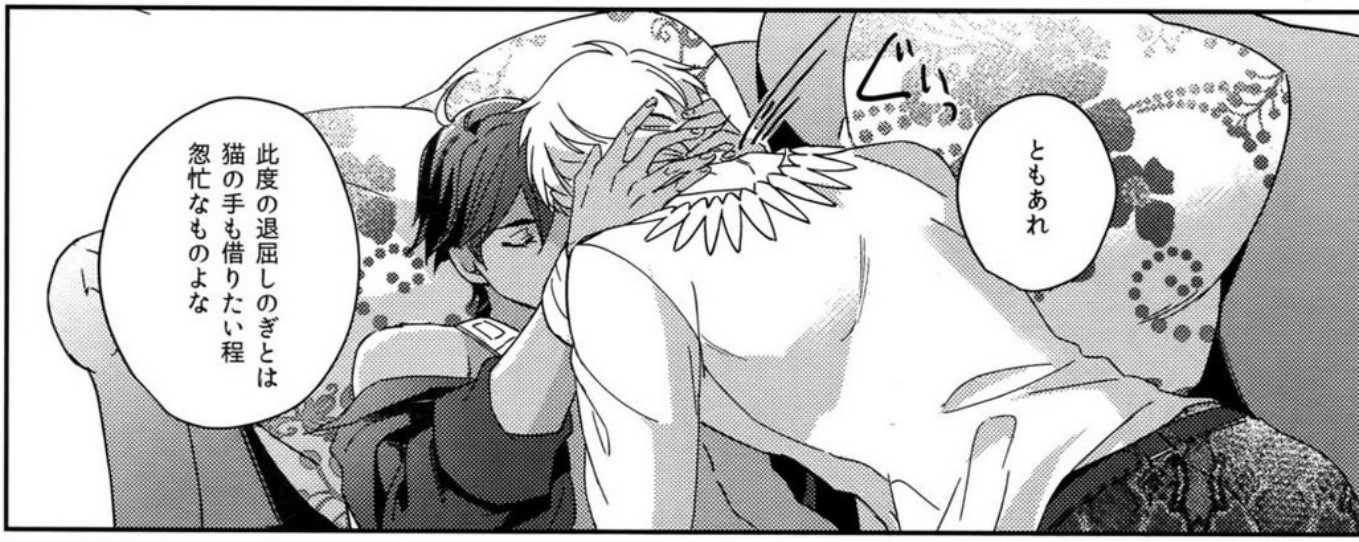

……
貴様…余程…
余のことを
好いておるな？
自惚れるな


ハハ！
愛い奴！
しかし
その好意の趣が
また酔狂よ
加減無しに
がっつきおって
斯様な腰使いでは
奪われる女も
たまったものではない


……我(オレ)は
言ったはずだ
万死に値
されなかった分
己を誇れと


我は王を
寵愛いた
翳りひとつない
尊大さを以ち
王としての
矜持を捨てず
下手に
媚びなかった
貴様をだ
……
黄金の
寵愛ききった
つもりか?
余は一言も
満足したとは
口にしておらぬ


よもや此処で終わらせるつもりか？
余とて貴様と同じ考えだ
貴様でなかったら我が神獣にでも喰わせておる
ファラオに歯向かう愚行の報いとしてな
ほわんほわんぎるぎる～。
親の方だ
親

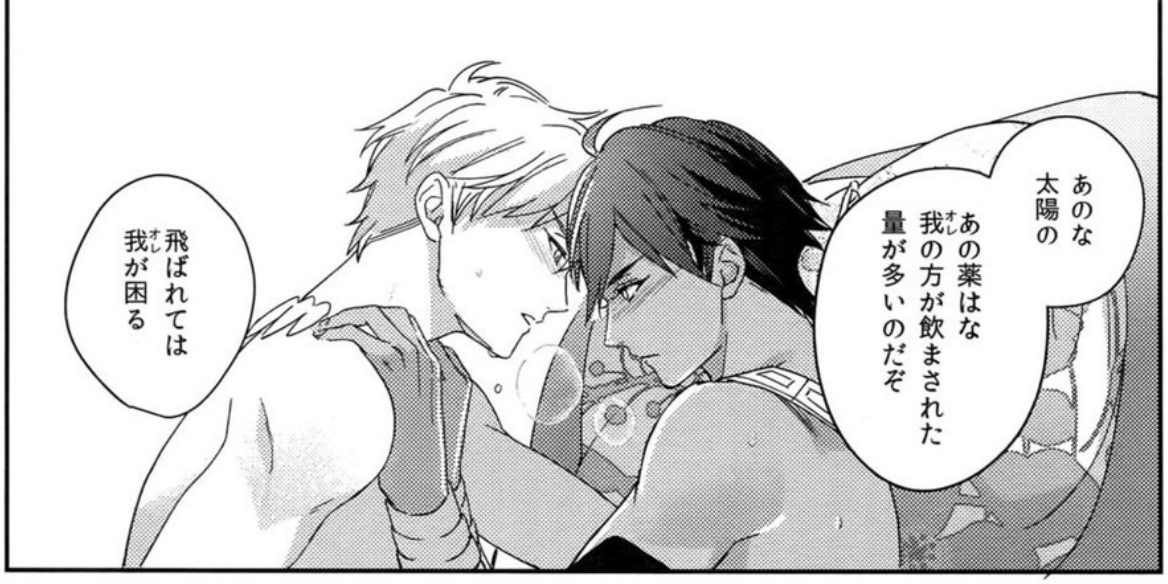

ともあれ
此度の退屈しのぎとは猫の手も借りたい程忽忙なものよな


……疾くせぬか
効果はまだ切れておらぬ


ふふ
貴様もこの程度で屈する王ではなかったな
竜頭蛇尾(りゅうとうだび)では他愛ない
あッ…！



うんっ
ガク
おう
ごんの
もう
よいだろう
ぱ
ガク
んぁ…
ぱんっ
ぱちゅ
ぱん
ずちゅ
ずぷ
ッ
いい加減
飽きた
飽きた？
不敬な
降参の間違いではないか？
効果は
ゆさ
ゆさ
ずっ
とうに
切れた！
余は
眠い
ずぷっ
ずちゅ


あのな
太陽の
あの薬はな
我(オレ)の方が飲まされた
量が多いのだぞ
飛ばれては
我(オレ)が困る


我(オレ)の貴重な
情けだ!
心して
慰めるがよい
?
貴様が
盛んなだけ
だろう
量のことなど
考えておらぬわ
こやつ量より
質派か
……。


やはり!
欲求不満なのは
貴様の方ではないか
鎌をかけさせる
でない!
素直になれば
愛でてやったものの
はぁ
もうよい
黙っておれ
ぐっ…
あ……


んん――……
せまい
どけ
んん…
こら
……
大人しく
抱かれていろ……


む
ああ…
すまぬな
魔力の供給を
怠ってしまった
おいで
ちゅぱ
ちゅぱ


ふふ…
よしよし…
愛いな…
――成程


ただの猫好きであったか
では余を
純粋に……
見くびっていたのではなく
は……ぁ…
……にしても
不敬極まりない。
END



※獲物に関するタmヒュン問題

すれ違いから始まる殺伐煽り合戦ギルオジでした。
英雄王は千里眼というハンデ持ちなので相手が思い違いしてマウント取ってきてもまぁ仕方ないかといった上から目線なノリではあるのですが慢心したからかまんまとファラオに煽られてしまうという。
でもお互い煽り合いながら情を交わすのは勝負感覚で興が乗るので案外悪くないと思ってるんじゃないかと…



神酒に別腸あり

2018.06.17


認めよう――…
ファラオ会――酒合戦後
送ってやれ英雄王！
winner
今は彼奴が強い
だーっはっはっは、
うぅ～～～～
オジマンディアス様をそんなっ
ぷり
ぷり
えいゆうおぉ～～～ッ！
フケイですよっ不敬！
ひっく
軽々と～！
ひっく
私がお届け致します！
ひっく

ほぉう
いつにも増して
大きく出たな
古き砂漠の女よ
酔った勢い故か？

いいえっ
そんなことは
ございませぬ！

今すぐっ

代わり
ませいっ！

スゥ…

ドッ

ハイただいま

プシュッ

雑種






え……？
どこまでお届けするつもりですか！
オジマンディアス様のお部屋はこちらでよろしいはずです！
※マイルーム設定
……
酒の勢い本性違わず。


こやつ
美女を見かけては透かさず共に夜を耽ろうとする
？
酩酊だ
貴様等とはいえこの男は何をするか分らんぞ
……。
というワケだ今宵のこやつの面倒は我が見る
ではな借りていくぞ
あ、ちょっと…！


酔ってて
よかった
一緒に
てれびげぇむを
するってことだよ
※酩酊初期につき
何かと鈍い
共に夜を
耽ろうと…？
どういう
意味です？
？
？
？
？
？
？
おい……
ドサッ
太陽の
寝酒とするには
些か飲みすぎだぞ
水くらい
飲んでおけ
酔ったままの貴様が
荒れでもすると
余計面倒だ


んぁ？
何だ
いい……
ガバッ
突然起き上がったと思えば
人の顔をまじまじと――……
!!!?
ちう♡


ぐぐっ
んんッ
おい
貴様…
ぱしゃ
ッ
ふ
ちゅっ
ちゅ
んぅ…
んッ
ちゅく
はぁッ…
許可もなく我が閨に入り込むとは
全くの不埒者よな


だが
我が側室よ！
余に対する愛執故の
夜這いとなれば
是非も無い
艶姿(あですがた)に免じて
斯様(かよう)な不敬を
不問としよう
不敬
今宵余と
枕を交わす
ことを許すぞ
フフ
女にしては……
少々逞しくあるな
まあ、良かろう
その美しさは
余が愛でるには
相応しい価値がある
佳し。
好きに
奉仕せよ
ニュル…


ウ〜〜〜〜〜ム
肴としては出来が良すぎる
王を飲む酒とは侮れんな
美しいのは認める。
よもやこの我(オレ)を美女と誤認するまで惑乱させるとは
しかし酒の上とはいえこの我(オレ)に身を尽くせとは片腹痛い…
殊更(ことさら)にそう申しておるのであれば貴様…
ニュル
一体どこへ向かっておる？
ニュル
道化の先をゆくか
そうさな
では存分に愉しませてもらおう
不敬を働いておるのはどちらか
その身を以て教示してやろう
くに



まー

ん……

ちゅぷ…

ウム

時に女よ

余に仕えるのは初めてであったか？

ちゅっ…

佳い手順だ

が……

しかしっ……

にゅぷぷっ

些かっ…性急ではあるな？

その巧みな舌使いであれば余も息長く味わいたいものよ

ぢゅる

じゅっ

じゅぽっ

ぬぷっ



夜を耽るには
まだ時間がある

故に…
急かずとも、

ぺろ

後で存分に
与えて――

ごくっ

！

其方……

ぷぷぷ…

誰が、

そこまで
やれと……っ

ぢゅっ

じゅぷ

ぐちゅ

くち


王に快感を与えるも奉仕のひとつであろう？
ここまで身を許した妾（めかけ）は居なかったか
ぐにっ
ッ
奉仕の、ひとつ……
そう、だな続けよ
好きにしろと申したのは、余だ
後で乱されるのは覚悟の上であろうな？
しかし美しき者よ
奉ずるは其方であるが
寵愛を与えるは余である
よいな
どの口が……


ぢゅる
じゅ
くちゅ
くち
ぐにっ
ッ……
は……
れろぉっ
んっ…
く……
くにゅ
くに
はぁ…
随分と、
盛んなことよ
ぢゅぷ
じゅっ
じゅる
側室らしからぬ
遣り様だな
ぐっ
積極的なのは
佳いが……


そこまでだ
主導権は
絶対である
王がもつもの


跨(またが)れ
その蜜壷に
其方が欲していた
ものを迎え入れよ
しゃる


…この我(オレ)から特権を
奪おうとは度し難い
酔い方をする
その狂気に
満ちる程
貴様は酒に
飲まれている
ようだ
キン
ooooo


ぱっかーん
……
な……
きょとん
貴様……
ぷっ
ソレは、
ぐぐぐ


いい加減目を覚ましてもよい頃合いであろう
そら我(オレ)の名を紡げ
ギ
ル…
ガ
メッシュ……？
ア
あッ
う
ッ…！


ふるふる
ッ……。
はっ…？
ッ？
何、故(なにゆえ)…
挿入(はい)っ……
て…
ゆ…愉悦…!!!!!
とり♡
対象：抱かれていることに気づき
余裕を失う太陽王
ばっ
たわけ！
我(オレ)がいつまでも
貴様の戯(たわむ)れ事に
付き合うと思うな！
貴様の妾(めかけ)として
演ずるつもりなど
毛頭ないわ



よいか太陽の

ずぷぷ

酒に飲まれようが
この我の姿形を
見失うようでは

ずんっ

ずちゅ

ずっ

ッ

我が
同盟相手として
不相応である

ずぶ

ふっ

んラ

故に、此度は特別に
至高の王という
存在を憶えさせて
やろう

その身に

その座に

うあ

あッ

たとえ正気を
失っていても、だ

ずちゅ

あ



悪酔いを許すは一度のみ
我が認めた王である貴様故よ
次は無いぞ
はっ…
あ
その為の情交だありがたく思え
んッ
ずぷ
ずぷ
ずっ
あ
ずん
あ…！
待て
黄金の…！
出すな
はーっ
はあっ



何を言う
こうでもせぬと貴様は憶えられぬであろう？
いやそれとも…よもや許しを請うつもりか？
ちが
そういう意味じゃ――…
これは貴様が働いた不敬の報いでもある
我の同盟相手であるのなら
潔く受け容れよ！
ッ…
あっん
イっ…
もう、入ら――…



ッ

ビクッ

ああーーッ!

ビクッ

ぴゅくっ

くぷ

びゅるる

かっ

は……

チカ チカ

はっ……

ぶるっ

カクン



スッキリ
ふう……
ひっく
ひっく
ッ
ぐすっ
!?
貴様の精は
神酒同然
ぐちゅ
くぷ
この神王たる
オジマンディアス
さえ泥酔させる程よ
悪酔いした余に
灸を据えたのは
貴様ではないか
なのに、
これ以上
ぼろ
ぼろ
酔わせて
如何する
貴様の行いは
理解できん
※生理的な涙
※生理的な涙


ギュイン…
泣き上戸だと
神酒、か……
ふっ
飲みすぎた故にその腸には酒は『もう入らぬ』と？
こやつ何故反応を示した
否
これは魔力で貴様はサーヴァントである
すんっ
酒には酒の入る別の腸があるというように
その身であれば魔力にもまた、別腸がある



ぐっ
！
先刻よりも酔いは増しているが正気に返りつつあるのも……
ねこパンチ
ぱしっ
マシな魔力が供給された為
何をするか
と言っても過言ではなかろう？
酔いに酔って濁った魔力では正気も保てまい
すす…
その腸には
まだ、入るはずだ
続けるぞ
神の酒として酔いたければ勝手に酔え
するっ
我は
こうして施されている貴様に興が乗った


ドスッ
うぐッ……!?
ぼす
のしっ
……
じん
じん
貴っ…
様〜〜……
先から
べらべらと……
御託を並べる間が
あるのであれば
疾く注げばよいものの
酒が回って
貴様の慢心は
増すばかりで
あるな？



閨での貴様は誠に厄介だ


今日のメンバーは…
え？英雄王大丈夫？賢王様かな？
おのれ…
フハハこやっただの二日酔いだ
精度を上げておくか……
バビロンの蔵 EX
えっ3%!? 3%しかNPチャージ出来てないよ英雄王
星モライダーに全部とられてる
スン…
NP 3%
ああマスターよ此度の編成は低コストで組んでおけ
？
宝具を放つ魔力を補う礼装は不要
※カレスコ
よいな
ええ……
アラオの神威を見るがいい！！！
フハハハハハハハ
フ……
それそんなスキルだった？高速神言B並みのチャージだけどゆうべ何かあったの？
太陽神の加護A
NP 120%
NP 123%
ギュインッ

お楽しみでしたね

ついに泣かせてしまった！ファラオを！お前が受になるんだよな展開を描けたので楽しかったです。
でもでろんでろんに酔ってされるがままになっても自分に夢中な英雄王は嫌いではないので
別腸がある限りもっと酔わされてもいいし、なんなら自分から酔ってやろうという強気なファラオなのでした。
古代王の魔力リソースはカルデアいちィィィィーーーー！



盟主在りて美観の夏

2018.08.10


ザーン
ザーン
ザーン
ずっと……
はあ～～～～
あ～～～～……
どうしたの？ニトクリス
びびっ
ど
同盟相手……
ファラオ・オジマンディアスが此処においでになられていることはご存知ですよね？
あー、うん
確か英雄王と一緒だったはずだよ



あ、ああ…
やっぱり…
あの崖の上
なのですが
ぎばーんっ
何かあったら…と
懸念を抱くばかり
です……
また随分と
お高い処に
大丈夫だって
あの二人なら
おそぼ!
ずんっ
はっ
お…
ッ
仲良く
バカンスでも
楽しんでるよ
ぱちゅ
ずぷ
ぱんっ
ずちゅ
ぱちゅ


さて
此処まで
来て
なよ
ふッ…
何故
こうなったか……
暑ッ
つい
―眩しい
諄(くど)い


この
鬱陶しさ…
よもや
貴様の仕業では
あるまい？
じゅ
じゅ
じゅ
ハハ
そうさな
こうも陽が
よく栄える時柄
だと余も炎陽に
なりかねぬ
特に！
此度は海だ
輝かずして
何が太陽か
フハハハ



して太陽の
ン？
貴様……汗ひとつ流さぬとは
些か気に食わぬな
この程度の暑さ取るに足らぬ
そうさな貴様なりに言うと…
余をバテさせる…？
のであればその三倍はもってこいというヤツよ
我のセリフのテンプレそのままハメよったな
フフ黄金の貴様は今
ソレ(汗)は流そうとしておるから流しておるのであろう？
中々に人として夏を楽しんでおるではないか
ずいっ


ちゅうう…


暑さあっての夏であろう！
倦厭（けんえん）たる雪景色（カルデア）と比べたら憂さ晴らしにもなろうとも
お前は夏の暑さに目もくれず普段通りに寛ぐ憩（いこ）いを愉しいと思うのか？
じゅ
じゅ

……。
ゲラン


フン……
輝きを放つ浴びるは至って好ましいが
それに屈して愉しむといった偏屈な趣は解せぬものよ
涼みながら果実を楽しむあどけなさが貴様にあってもよかろう
どうだ黄金の？
余が特別に石室のひとつでも建ててやるぞ


結構だ
自ら箱入りと成しているような王の慈悲などいらぬ
我(オレ)は我(オレ)でこのバカンスを愉しむとしよう
貴様を添えてな？
ほう……
フム
ああなるほど
夏は人らしく暑さを以って寛いで欲しいと――…
つまりそれは神である余への懇願というワケだな？


よいぞ
その願い
聞いてやらぬ
こともない！
余に汗を
かかせることを
許す！
ふはは
そう拗ねるな
貴様の言の葉を
飲み込むのに
些か手間取った


ふふん
我(オレ)が寛大であること
有り難く思え
んん？
宝具か
くだらぬ挑発で
貴様に宝具を放つほど
酒は回っていないのでな


夏の太陽
蒼き空
果てしなき
大海……
王の宝具が
映えるには
十分な備え
である
この美観となれば
絶好の機よな……
貴様わかっておる
ではないか
照れるぞ


さて…貴様は
如何様にして
余に汗をかかせる
つもりだ?
宝具のひとつやふたつ
見せてくれるのだと
思った故
余もそのつもりで
いたのだが
うむ
そうさな
汗を流す間も無く
一敗地に塗れても
つまらん
一敗地に塗れる……再起出来ないほど大敗する様
む、左様であるな
では――…?


情交だ
寵愛(だ)かれでもすれば
汗をかかざるを
得まい？
……色狂いめが
ニヤっ
※サクランボの軸



うッ
あ…
ああ…
そうだった
やたらと
暑いと感じるのは
はぁ
はぁ
はっ
余が
寛大な
心をもち
此奴の願いを
聞き入れた故…
ははっ
どうだ？
炎天下で汗に
塗れるというのは
ぬぷ
ずぷ
ずちゅ
んッ？
んん？
炎天下、か…
ぴた



それは貴様のみであろう？
太陽はここに在るぞ問う言の葉を誤るでない
おのれそのまま喩えるな
ずんっ
あ、あぁッ――…！
ビクッ
ビクンッ
ずち
ずっ
ずぷっ
おっとよいのか？
此処は閨ではないのだぞ
はーっ
はーっ
はーっ


敢然(かんぜん)たる嬌声(こえ)を上げるようでは
雑種どもに醜態を晒すことになるぞ
少なくとも我(オレ)は気づく
アーチャーでもあるしな
この暑さだけに汗顔の至りであるな
ふッ……
フハハ!!やめよ!
猛暑の情交なれどその言の葉は冴ゆるわ!
な
我(オレ)なりに上手いことを言ったつもりだぞ
ツボっとるではないか貴様


醜態であれば
今貴様が晒しておる
それが余ただ一人
にしか見物できぬ
となると
些か勿体無い
気はするな
……ああ
その挑発も
悪くはないな
貶し甲斐の
ある――…
んッ
あ、あッ!!



あッ
あ
はッ
んぁ
アっ！
ぱちゅ
ずっ
ずぷ
ぱんっ
ずちゅ
はっ
はぁッ
あつ
い
ふは
あつい、か
そうだな
猛暑故な！
こんな時候の情交など酔狂極まるわ！
ドッ
じゅ
じゅ
あふっ
そも…
余に汗をかかせたいと申したのは
貴様っだろうが
ゆさ
ゆさっ
それにノったのは貴様だぞ
色情に耽ておるのは貴様も同然


ええい
もうよい…！
疾く
果てよ
暑さで如何にか
なるのは
まず
貴様だッ…！
貴様は既に
如何にかなって
おる
そらっ
ぽちゃ
ぽちゃ
ぽちゃ


あっ
びゅく
ぐ…
んっ
びくっ
びくっ
んくっ…
う…
あっ…
ついわ!
はーっ
ばっ


どうだ
これが夏の
暑さだ
はぁ
はぁ
ハ…どこが
これではただの
酔狂な情交に
過ぎぬ
魔力を無駄に
したわ――…
む
ぬぽ
なんだと？
注いでやったと
いうに不敬な
締りが
悪いぞ
……そうか
これが
夏バテたる
ものか
上手く
吸いきれん
ぐちゃ

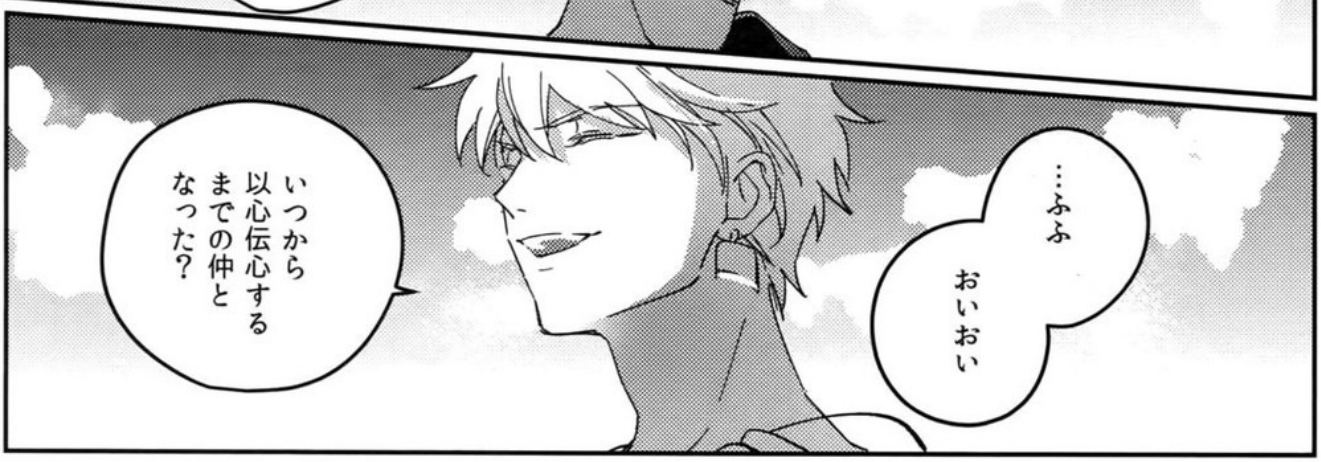

ムシッ
こやつめ
ほぞ…
これで煽ってる
つもりなど毛頭無い
故に質が悪い…
ガッ
貴様！
何が魔力を
無駄にした、だ
何故
掻き出しておる
無理やりにでも
吸わんか！
フン
バテた貴様の
魔力など
誰が欲した
だらしがない、
濁っておるわ！
斯様に煮えた
魔力とは
冬に凍えた肚に
注ぐもの
余の身が
凍えることなど
ないのだがな！
不敬


何れ我(オレ)の魔力が恋しくてたまらなくなるだろうよ
ポン
言ってろ
チカッ
ギリ
貴様は今
長蛇を逸(いっ)した故な
……なんのことだ？


我(オレ)には
関わりのない
ことだ
ほう？
さては何か
良からぬもの
でも視たな？
気になるか？
杞憂となるぞ
フン……
如何なる
事柄であれ
余は杞憂など
もたぬ
それに


乙に澄ます貴様を
見ればそれは余に
とっても縁の
ないこと


であれば
わざわざ
己には関わりの
ないこと、などと
口にせぬであろう

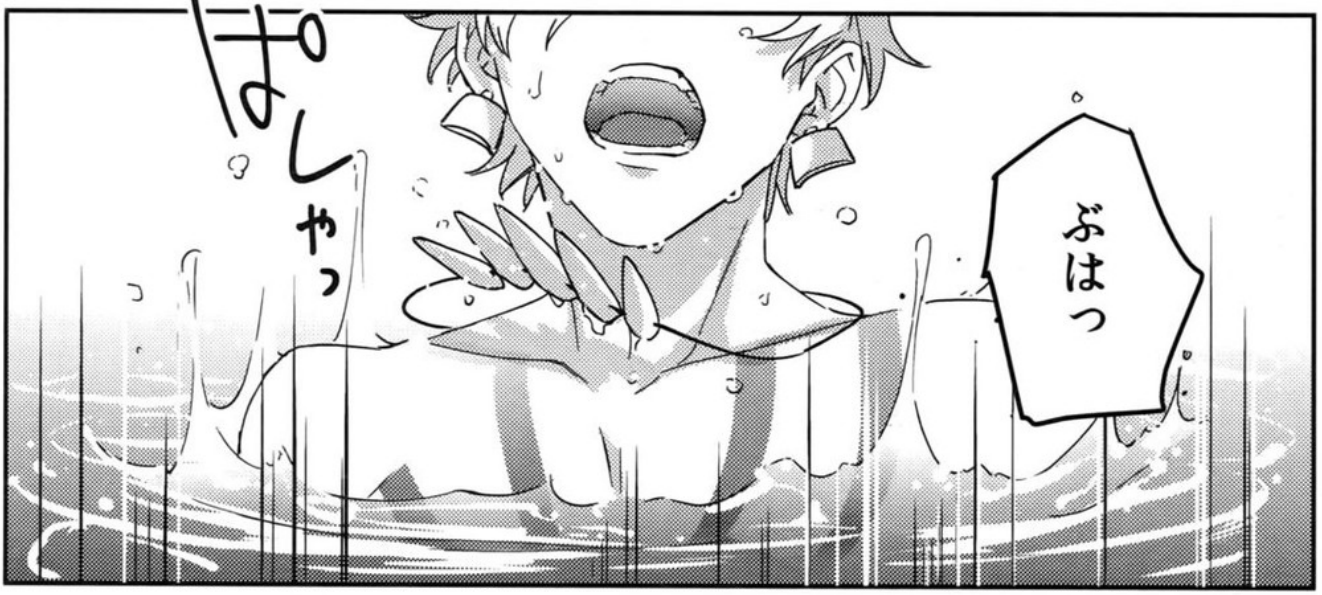

…ふふ
おいおい
いつから
以心伝心する
までの仲と
なった？


おや？
余の勘は
当たったか！
ならば良し
……。
黄金の


ぐいっ
んなッ
ちょ……




ざばーんっ


ぷはっ
ぽしゃっ


んぬ
黄金の！


げほっ……
阿呆か
貴様……！


これは
水着と
言ったな？
斯様な衣を
纏っても――…
泳ぐ場所が
なければ始まらぬ
然り！
海だ
遊ばずして
どうする!!!
貴様も見栄を
張るには飽きた
頃合いであろう？
行くぞ！
皆（みな）の処まで
競争だ！


フン
貴様は見栄を張らずしても我から見たら幼子同然――…
あこら！勝手に進むでない！
この我と泳ぎ競べるなど貴様だとええと…
ばしゃ
ばしゃ
ざぷんっ
千年！
いや二千年早いわ!!
ポポポポ


む
にゅるるるっ
にゅる
にゅる
エネミーか
！
黄金のめ…
気づいておらぬな
此処がただの遊泳場だと慢心したか


……いや
慢心はしておらぬ
寧ろ……
無我夢中か
ニッ
にゅ
ぶ
ニッ


余を前にしながら
先に狙わんとするは
一番でなく二番と
するか！
臆病者め
叩き直して
くれる！


ごぼっ
黄金の


青二才なのは
貴様の方よ
ぷはっ
流石に距離が
あるな…


して太陽の
我(オレ)はあっさりと
貴様を抜いてしまった
ワケだが――……
!!
……
敵襲か
――成程


殊更に
抜かされて
やったというか
何を
手こずっておる
不覚を取る
くらいであれば
過ぎた
真似をするな


ザーーー


……フン
海だからといって
ふざけるのも
大概に――

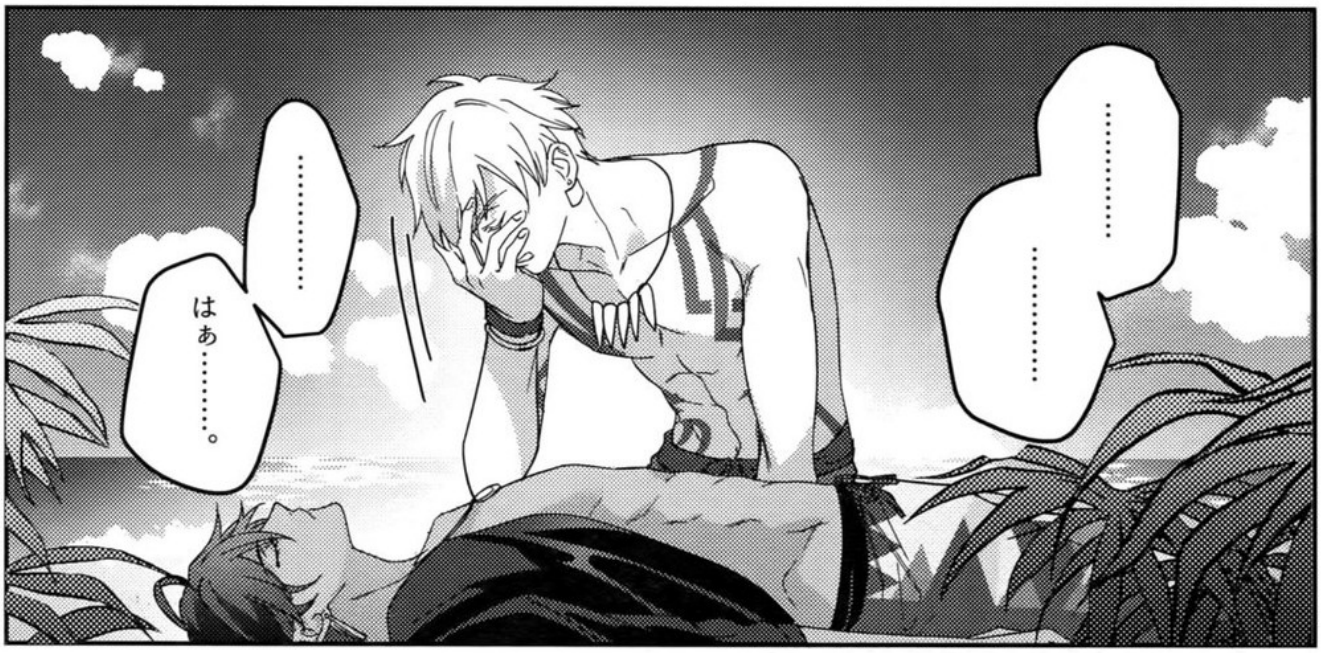

……
おいっ
な
!?
おいっ


……
運べ、と？
カクン
キラ
キラ
キラ
生意気な


……。
何故我(オレ)がこのような……


ギラーン
おい
太陽の
膿面もなく
我(オレ)の前で微睡むとは
一体どういう
風の吹き回しだ？
ギラーン
よもや
本意では
あるまい？
はて
貴様はそこまで
間抜けで
あったかな……
すっ
しん…
……
……


目を覚まさぬ
のであれば
所詮その程度
我(オレ)に並ぶには
到底早い
ということよ


……
……
……
はぁ……。


暑さ故か
気が狂う――……
さて
サーヴァントに
蘇生術とやらは
効くかどうか
やれやれ
我(オレ)の慈悲深さに
感謝するがよ――
ふッ



……
ふる
ふる
……。
ギチィッ
くいっ
がばっ
ふ
っ
ちゅ
ちゅっ
ちゅく
んッ
あ
ピクンッ…
は
ちゅるっ
ふッ……
ぞく…
ぢゅ


んッ
はぁ……
ハハ
まったく
勘の良い…
先刻に比べると
マシな魔力だ
献上ご苦労！
フ
抜かせ！
擬死までして
魔力を欲して
おったろうが
看過することが
出来なかったのは
余、故か


随分と人間らしいな
貴様にしては


何故救いの
真似など？
杞憂を持って
いたのは寧ろ
貴様ではないか


だが絶対である余を
救わんとするなど
不敬も同然
見縊るな
貴様が案ずる程
余は脆弱ではない


ぱしっ
――自惚れもそこまでにしておけ
よいか
我(オレ)は貴様が自ずと作った借りを返してやっただけだ
情けに応えた他ならぬ
つまり余の行いは余計な事であったと申すか
余は貴様に借りを作ったのではない
褒美を与えたのだ
競い合った中余に慢心を見せなかった故に！
辺りを払えなかったのも致し方あるまい
図星
……。
その事実に免じて今は不敬を不問としよう


黄金の
次こそは
真の褒美を
与えてやるぞ
ただし
先刻のように
慢心を見せぬ
ことだ
フン……
慢心せずして
何が王か
くだらぬ戯れに
付き合うほど我(オレ)は
暇ではない――……
あ
王様たちだ！


一緒に
遊びましょう！
こんなところで
何をしているのか
かしら？
おーい
あんまり遠くに
行っちゃダメ
だよー…　あ
おお
マスターに
ニトクリスも
皆(みな)よく映えた
衣であるな
ありがとうございます
ファラオ……!!!
あれ？バカンス
楽しんでたん
じゃ…？
なに
此処に来て
雑種どもの戯れに
付き合うのも
愉しみの一環である
故に君臨して
やったのだ
君臨って


さて雑種
早速だが貴様は
資材集めに赴け
資材…？
ニヤ
ぴしっ
――位置について
よーい……





ズドォォォォン

天地驚愕の合作……

名付けて――……

バァァァァァァァァン

わくわく
ピラミッド
ざぶーんである!!!!!!!


うぉ～ 何だありゃぁ～!?
私のステージにぴったりじゃない！
なんだアレは
我(オレ)ならもっと低コストかつ更に良いものを造れる
はっはっはまたド派手にやったなぁ
あのマスターのコキの使われ様よ
その雑さもまた若々しい
しかし彼奴等(きゃつら)め
揃うとまた旺盛であるな


全くだ
放っ精彩があくどい程にはな
見よ
あの活気を出し切った王の面を
太陽ともあろう者が今にでも微睡みそうではないか


むう？
余にはそう見えんのだがな
寧ろ騒がしいくらいよ


……ああ千里眼その眼か？
であれば透視も出来て当然か


いいや？
牛耳を執る
我(オレ)がそう視ておる
ははは貴様ら
視界を共有して
おるのか？
器が別だと
左様な使い方も
出来るのか
そういや幼き余がおったわい
たわけ
そのまま捉えるな
我は全てを
見通す
※絶対にマネしないでください
天地驚愕の
同盟
か
……
……
あの二人……


左様な仲であったか？
おのれ友ならおるわ
いないもの同士がくっついたとか？
ありゃ完全に童心に返っとるわ
征服王よ 同盟を組んだ者が皆昵懇の仲とは限らん
アレらはあくまで同盟
利害・目的・思想が一致した上で行動を共にしたり力を合わせたりする
だけの仲だ


この眼が魔力不足な太陽のめに注目しているワケも
奴と同盟を組んだ故な
ああ心配の意など欠片もないぞ
それこそ朋友と変わりない扱いとなる
気付いとらんのか

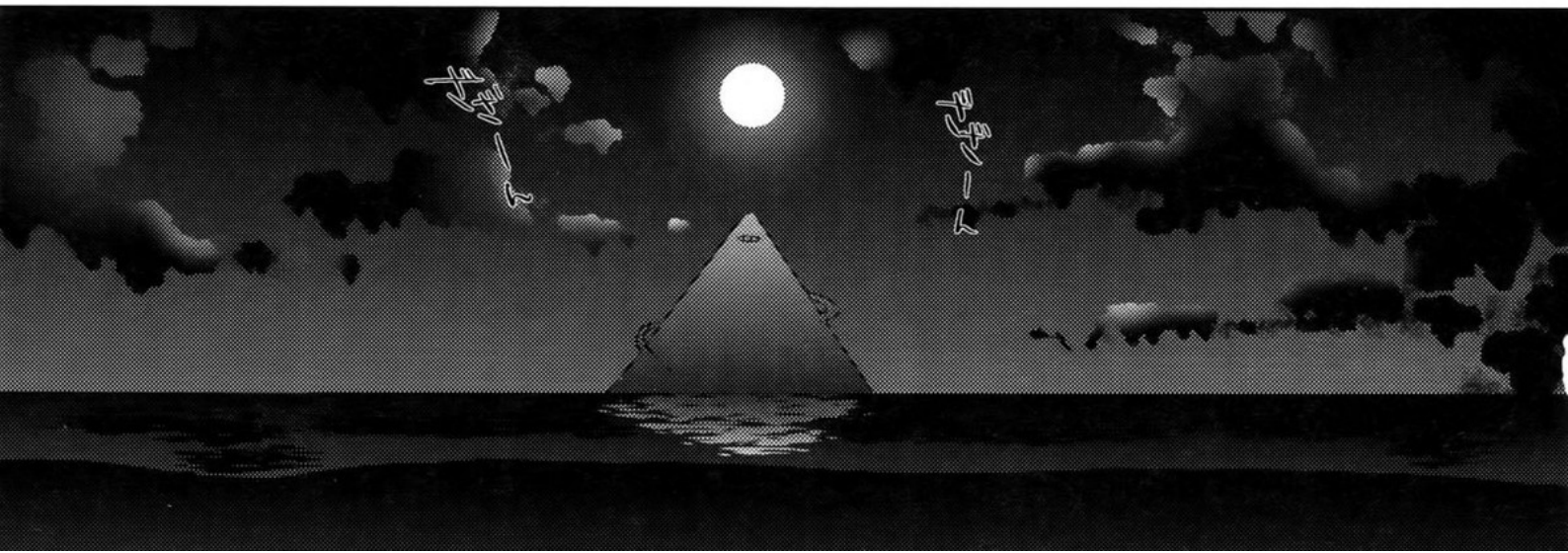

つまり。
太陽のに夜の帳が下りるとなれば……
そうさな
まずは双方の思想が一致せん


なるほどわからん
ふうむ……
う～～～ん
メタ過ぎる
気難しい
貴様等にしか
解せぬことも
あろう
左程親しい仲
でもないと
言い張ることも
ややこしいわい
この話には
降りるぞ
ずいっ
ウム
それが正しい
のめり込めぬ
佇(オーラ)まいという
ヤツよ
ふはは
よく言うわ
エルキドゥ
お前
いつから
……
それにしても


日が
暮れるには

ちと

早いかな


ドドーン
ドドーン


一度ならず二度も
狸寝入りする程
諄くもなかろう
――であれば
此度は誠か


己の強さを
誇示するのは…
まぁ
良しとしよう
それでこそ
王である
だが
なんだその
体たらくは
無警戒に
過ぎる
ザッ
こやつ
己が毒された
ことさえ気が
付かなかったか
ぺら


今残っている
魔力だけでは
微睡むだけで
精一杯といった
処か
毒が解されぬ限り
放っておけば…
朝方には
あっけなく
カルデアに還って
いると
ぐりん
いやはや
あまりにも
愚か――……
己の肉体の脆弱さを
語るお前がそれを
知れば
どんな面を
曝すのだ？
はら
ふっ
愉悦を味わうには
似つかわしい
対象よな


となれば
我(オレ)は慢心でもない
間抜けさを顕わに
したこの道化と同盟を
結んだこととなる
ゴッ
取るに足らぬ
原因だけで
王の掟の信義に
もとらんとするか
ずるっ…
それでは
我(オレ)は勿論
お前も
不服であろうよ
疾く
目覚めよ
褒美が
欲しければな

夜の帳。

ああ

余は

知らぬ間に微睡んで
おったのか

太陽神たる余に
夜の帳が下りる
などあるまじき事

いいや




ドボン
よもや余自ら
下ろしたというか
この肉体とは
やはり
かつても今も
儘ならぬもの
……と、
ばかり…
弁解を
続けるも——


情けないな
神王よ
自ら生み出した
愚かさを
貴様の思う
神王でありながら
みすぼらしい肉体
ばかりの所為と
そう捉える
つもりか
と
同じく王である
貴様は嗤う
であろうか？
我が
同盟相手よ


否
貴様の
その侮慢は
愚案の更生にも
繋がろう
神が
光輝が
この余が
肉体以前の
問題に
今を輝かずして
忸怩(じくじ)たる思いを
するなど
嘆かわしい
王故に。
貴様の慢心の毒が
うつった他ならぬ
となれば
この失態は
だが余は
至高の神王である


慢心したとはいえ
たかがこれしきのことで
己が脆弱さに王の在り方を服するものか
これでこそ貴様が仰望(ぎょうぼう)した太陽王というもの
そうであろう？
英雄王(ギルガメッシュ)
ﾅﾝﾊﾞﾝﾃﾞﾓ
ｽﾊﾞﾙﾗｼｲ
ｵﾄｺﾉｺﾃﾞｽﾈ
ｻｲｺｳﾉﾋﾄﾐﾆﾅﾘﾀｲﾄｲｳﾉﾊ


して
その毒と共に
当たる夜風とは
これ程までに
心地の良いもの
だったろうか
……
心地が良い
というには
些か……
甚だしい……




……
黄
金の…


ようやっと…
目が覚めたか
太陽の


やはり
我(オレ)の魔力とは
貴様の肉体に
馴染むようだ
ビクッ
!?
……
は、
うあ…?
黄金の、
な、にを…
ビクッ
フフ
夜這いには
慣れぬか?
している……!


昼間よりは
締りがよいな
では
感度はどうだ
判ってから
反応を示すとは
厭らしい
うぐぐッ…
ふっ
ふっ
きさ、
まっ…
余が
常っ
身体を許して
いるとでも…！
出来上がっていて
それを言うか
我(オレ)の魔力を望んだ
故の目覚め
であろう？
あッ
ゆさ
ゆさ…
拒めばお前は
微睡んだまま
であった
うあ…



馬鹿な…
あッ…
は……
まことっ
盛んなことだっ…
獣め…！
ん
はっ
んッ
ン
う
ずぷ
ずっ
ずんっ
ぱちゅ
がしっ
太陽のっ…
今ばかりは
拾われていろ
じゅぷ
ずっ
はぁ
あっ
あ
我(オレ)の気まぐれは
滅多にないと思え
次の朝を
迎えられぬぞ
ちっ


ハハ…っ
そう
だな
太陽無しでは
天は朝を
迎えられぬか。
この有無相通じねば
ならぬ状況も
その為であろう
神の加護を
纏いし王よ
貴様は余程
太陽を好んでおる
ことがよく分る
神を嫌っておるとは
信じがたい——
ふはははっ
無理をするな！
貴様に左様な
皮肉などそぐわん


尊大であるからこその貴様であろう
よいか
我(オレ)は
神であれ貴様のことは好ましいと
思っ……
て……
……。
ぱっ


フッ…
フハハっ…
ドッ
フハハハハハ
ハハハハハ
もうよいわかった
それ以上の言葉は
慣れておる
貴様こそ
無理を
するでない
ぱしっ
しずしっ
不覚
思っていた
以上に……
約束するぞ
同盟相手よ
貴様が在る限り
すり
余は王もを
輝かせる太陽で
在り続けよう
案ずるな
余は決して
貴様を退屈
させまい



ひょい
む
すくっ
フハ…
おいおい
トンッ
ずぷぷ…
あッ……
は…！
魔力の供給があったとはいえ我を倦ませぬ為に目覚めたのであろう？
であれば褒美を与えてやるまでよ



あッ
は
あ
ずん
ずぷっ
ずっ
ぱちゅ
ぱんっ
あと一度
注げば終いだ
んっ
ぅ
僅かながらの
毒もこの魔力で
解かれよう
ずぷ
はっ
はぁっ…
随分と吝嗇(けち)な
ことを言う……
くしゃっ
ここまで暴いた
のであれば
双方
心行くまで、
満たしてみせよ
与える褒美は
大きくなくては、
な？





——いいだろう
欲張りめの
懇願に応えるのも
王の務めよな…っ！
ぎゅっ
ぎゅぷんっ
あっ
あ、
はっ
あっあ
奥
当っ、
あ
ずっ
ぢゅぷっ
ずんっ



一滴たりとも零すでないぞ

毒された胎で煮えた魔力をじっくり味わうのも…

悪くはなかろう？

ぐいゅっ

んッ、ぐ……

お、ごんのっ

ぐいっ

んッ

ちゅっ

ふ

んぅッ

ちゅぷ

ンン…！

ずんっ

ずっ

とぷっ

じゅぷ


ん
ちゅく
ぁ
ちゅっ
は
んむっ
ぁ
ちゅ
こちらも、
寄越せ
胎だけで
満たされると
思うなっ…！
なぁっ
ッ
全く
貪欲なやつめ
もう少し愛いらしく
強請ってみせたら、
どうだ！
ぐぃ


んっ
は……


ギギーん
ギギーん
ギギーん
ギギーん
スゥ……


ん……
もぞ…
ぽち


まだ、
眠たげだな
魔力が足らんか
余の加護が
必要であれば申せ
くあっ
へっぽうは
結構だ
タベあれ程魔力を
欲してた奴が
何を申す
渋皮がむけたな
やはり
貴様は
そう燦燦と
在っていろ
眩しすぎる
くらいが我には
丁度よい


フ
自明の理よ
何を今更
余の眩しさは
常(とこ)しえである
見よ
是は
地上に光臨せし
王在りての朝を
ともに迎えられた
祝福でもある
しかし昨日とは
また一層
映えた
美観よな


この青天井も
青海原も
美しくなるのは
必至であろうとも
然り
輝ける王が
光臨を仰げば
だが
うむ……


此度の
出来ばかりは
一番と二番
双方在りての
ものと言っても
過言では無かろう


……
この美しさは
ひとつの輝き
だけでは
顕現出来ぬ
我らが同盟も
是と似たようなもの
やもしれぬな
王一人在らば
その光輝も
十分ではある
だがその輝きが
もうひとつ在る
ことで
この美しさが
此の上増すと
なれば――


我が
同盟相手よ
何人(なんぴと)も
敵う者など
おらぬ


この天地は
我らのものだ
美観

おまけ
天地驚愕の同盟～ビーチバレー編～

臨時出演：ぐだ男くん

















ハッ
あれは――
察知EX
片方がサーブを拾えば次は片方がスパイクを打つか
淡々と味方にトスを上げるか
あの二人は性格上どんな球であれ自分にトスさえ上げられたら
アタッカーである自分がスパイクを打つ
あの揺るぎない仁王立ちは王（アタッカー）としての矜持なんだ！
それを殺してまで相手をサポートする姿なんて見当もつかない…！
だから二人とも球を拾わない
もしかしたらこのゲーム
勝てるかもしれない――！
雑種め
古代王に勝てる
慢心しまくりではないかフラグだぞ
ビュッ
さあ行きますよ！
次でゲームセットです！


最果てにて（ロンゴ）
輝ける球（ミニアド）――!!!!
パカラッ
ドドド


うわ
レシーブ高っ!!!
眩しッ……
ドスンッ
くッ
太陽を利用した目潰しだと!?
小癪な…!
太陽王がいるからか余計…!
打て太陽の!
我(オレ)が手を下すまでもない!
フ
慢心は災いの元となるぞ黄金の
これぞまさしく大好機!
好機の複合神殿である!
太陽が如く我が熱球
光無き己への褒美と心得よ!


ヒヒヒ

何かと思いを込めすぎてページ数が偉いことになりました。
王たちがバカンスに行ってなかったらギルオジ本出してなかったなと…。(ハマったきっかけです)
自分に並ぶ光輝が在ることにより普段とは一味違う輝きを放つ自分を見出していく王達の話でした。
勿論その為にある相手の美しさや輝きも気に入っているのでお互い自ずと依りあってしまう関係な天地驚愕の同盟が好きです。



疑似的ロストバージン 王の器

2018.12.30

指令紋章
天の楔

刻印されたカードに
英雄王特有の
【サーヴァント】
特攻効果を付与する

2018秋――
英雄王が催した
バトル・イン・ニューヨク
の産物である

この力、存分に揮うがいい

COMMAND CODE

というワケで
我らが大将！

カルデアエース
オジマンディアス

今回の貢ぎ物は
ちょっと豪華
なんですよ

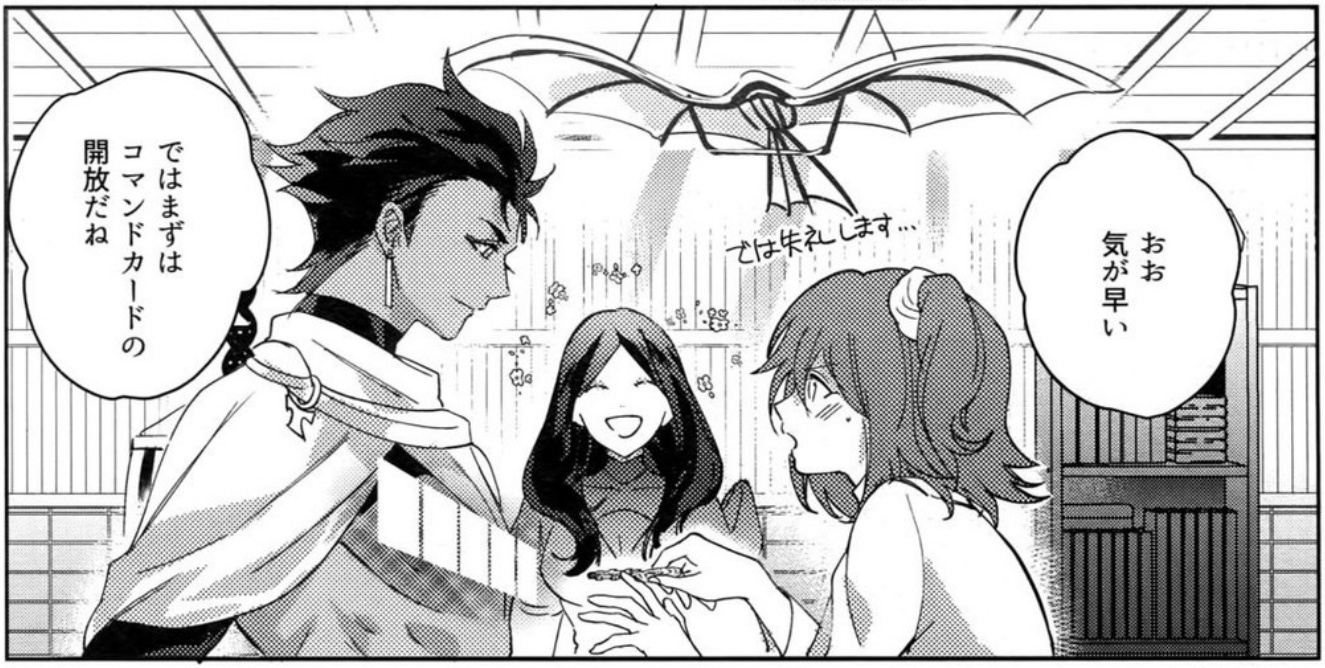
献上ご苦労


ム…
指令紋章
とやらか


余は完成され
ファラオ故
斯様な強化など
不要ではあるが…
まあ試すのも
一考よ
眉唾物では
なかろうな？
ダ・ヴィンチ
ちゃんよ


うん
怪しいモノ
ではないよ
かの英雄王の力を
象る至高の紋章だ
大事に取って
おくのは
勿体無いくらいさ
ふむ……


では許す
その力
我が身に
篤と刻むが
よい


おお
気が早い
では失礼します…
ではまずは
コマンドカードの
開放だね


ん
んんん…！
か…
固い…
回せない…
ガチ
ガチ


おや？
鍵の形は
合っている
はずなんだが…
ガチ
ガチ
この私が手を掛けた
システムだ
手抜かりなんて
あるはずもない
不具合が
あるとしたら……
チラ
彼自身――…
もしかして
無意識に
強張っているな
閉ざされた
膜を暴き
そこに印を彫る
まあ謂わば
処女喪失同然だ
緊張を解す
施しも用意
すべきかも
しれな――…


処女厨
……英雄王
視たな？
人の心を勝手に
覗くのはよくないぞ～
処女性を奪うことができる
権利を持っていたことで有名
まあまあまあまあ
待て雑種
!!
ひょい


この指令紋章の
ことなら我(オレ)に任せよ
ム 黄金のか
あっ
おかえりなさい…？
さっきはすみません
だと







これも没収
あーっ！奪回のつもりですか！
ひょいっ
ギリ
ひえ
…ここは英雄王に任せよう その方が手っ取り早い
え……すっごい睨まれた…
ガチだなあ……
サッ
太陽の今宵は宴だ
気合を入れて来いよ？極上の美酒を振る舞うとしよう
ム？何の祝い事だ？
後で教えてやる
……。
そら
太陽のは間もなくレイシフトであろう？
貴様も疾く身支度せぬか雑種
は、ハイッ









っとに、
この王様は
初物がお好みだねえ

成程

まずは酒で
リラックスさせて
からか――……。

ちゃどん

ちゃどん

ガチィィィィィーン

で、だ

黄金の


一体
何の祝いだ？
そうさな
そろそろ
告げても
よい頃合いか
まずは
コマンドカード
開放の祝いを…


……。
む
ガラン
なんだ つまらぬ
斯様な事に
宴を開くまでも
なかったろうに
何を言うか!!
このカルデアにおいて
コレでサーヴァントの
コマンドカードを
暴くのが初の試みなのだ
その上刻印するは
この我の力を象る
紋章である


フハハ
神事と申しても
過言ではなかろう!


ハハ
大層らしい……
それもハリボテに
過ぎよう?
ぽさっ
貴様の本心は
疾うに見透かしておる
ほう…
バレたか



マーキングであろう

ぺ

かーっ

マスターの意が良い口実となったな

紋章構想された己を至高のファラオに印じたくなったと。

フフフ獣が如く欲よなぁ！

いつもの

こやつ

酔いが回っているおかげか普段より不敬が甚だしいが…

だが流石は余の玉体

そう簡単には暴かれず誰の手中にも収まらぬようだ

正真正銘の腑抜けよ

此度の目的は蒐集ではない

そう

果たすは疑似的な——


故に
こうして
酔わせている
ワケだ
王でありながら
小賢しい真似を
しよるわ
肉体の操を破くために
まずは酒で余の理性を
揺るがそうなどと
そら
殊更に身持ちを
柔くじてやったのだ
出来るものなら
してみせよ
これもまた
良い口実だ

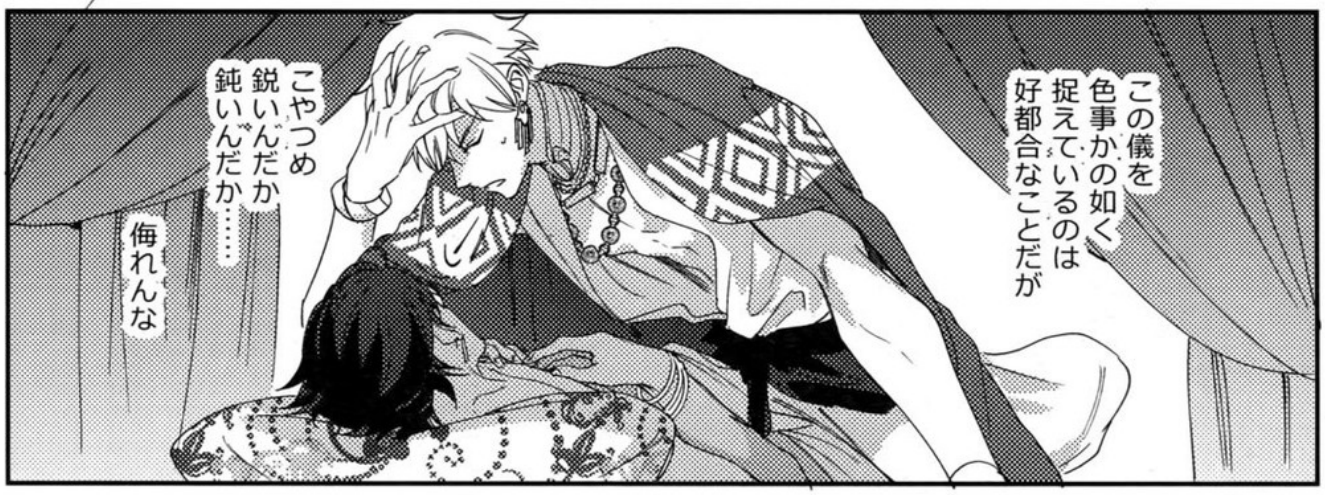

んッ
んぅ…!?
ちゅ
ん
はッ…
ん
ちゅく


余は情交のつもりで誘ったのではない
斯様な前戯は刻印を打つのに必要あるのか？


おい
いっ


はっ
つい生前の悪癖が
いやなに蒐集家としての血が騒いだまでよ
痴に障ったのであれば控えるとしよう


ふむ
貴様にしては
慎ましやかで
あるな
王ともあろう者が
些細な叱責に
縮こまること
などない
許す
心ゆくまで
我が玉体を
求めるがよい


この儀を
色事かの如く
捉えているのは
好都合なことだが
こやつめ
鋭いんだか
鈍いんだか……
侮れんな


ああ だがくれぐれも
腰を入れるなよ？
歯止めが利かなく
なるのが
欲深い貴様の
悪い癖だ


うん…？
違うな
抑えられぬのは
我が玉体故にか
これは
失敬――…


今宵はやけに
舌が回るな
気を許す
為にか？
何も…
懸念など――
ん……
ふ



すす
んッ……
くり
あっ
ぐっ
はッ……
手付きが妙に――……
黄金、の……
もう……
果たして求むのはどちらなんだか
それを突き放す時こそが至上の愉しみというヤツだが――……
なんだ
もう頃合いか
そうだな――……


くどい
主要を忘れたか
黄金の
ふはは！
そうだろうと
視えておったわ
真に求めるなぞ
王としてそぐわぬ
しかし斯様な
悪戯な振る舞い
どこで覚えた
はて何の事やら…


さて
ここの操とやらは未だに立っておるのか？
酔わす濡らすと色付けを施したワケだが――……
濡らす？
は？
違うな
潤すだ
喉を潤す。
は？
口吸いで我の魔力を十分に蓄えたのならば色事に声を枯らす懸念も無かろうな！
……余を前によくも不遜な振る舞いが出来る
ますます期待が膨らむなぁ黄金の？
落胆させるなよ
その際は容赦せぬぞ
我がここを初物扱いしているのが読まれると
厄介事になろうな


オジマンディアス――
この我(オレ)と並び侮れぬ王よ
しかし
その尊大さが
甚だしい故に
詰めが甘い
こやつは器としての
立場でありながら
一本取らせるつもりで
居させた方が
事が手際よく進む
これはこれで
ストレスでは
あるが…
どや
どや


一泡吹くのは
貴様だ太陽の
まがいの花を散らしてやろうではないか


ああ
鍵穴の正しい
位置だ
まずここを捉えて
おかねば
印ずるどころか
解錠すら儘ならぬ
指…？
傲然たる精神とは裏腹に
強張っている肉体を
丁重に扱ってやるのだ
少しは感謝しろよ
フン…強張るも何も
感度も無ければ
懸念も無い
マスターが 貴様が
我が玉体を
扱い慣れておらぬ
だけの話よ
ほおう
感度が無いと？
この我が
手を加えるのだ
下手に
布石を打って
どうする
――！


どうした？
……
いや……
鍵穴は其処か
で、だ
雑種はここが
堅く差し難いと…
そう申していたな
奴が不手際
なのは
認めよう
だが…
そうさな
たまには謙虚に
なるのも悪くない
ハンデ
というヤツよ
ゆるっ



……鍵穴に油を差すのは好ましくないはずだが

本物と見なすな

なに、解錠用の潤滑剤よ

いつもの香油ではないぞ

どのサーヴァントであれデリケートな箇所だ

貴様も雑種も破壊をもたらす開錠は望まぬであろう

そうしたとして

少なくともこれを編み出した発明家は悲憤慷慨しようとも

うぎぎ〜〜〜無理やりだなんてヒドイよ〜〜

みすぼらしい環境に慈悲を与えるも王の度量よ

……その物乞い今なら聞いてやらぬこともない

貴様の斯様な姿勢には目新しさがある

故に…滑稽よ

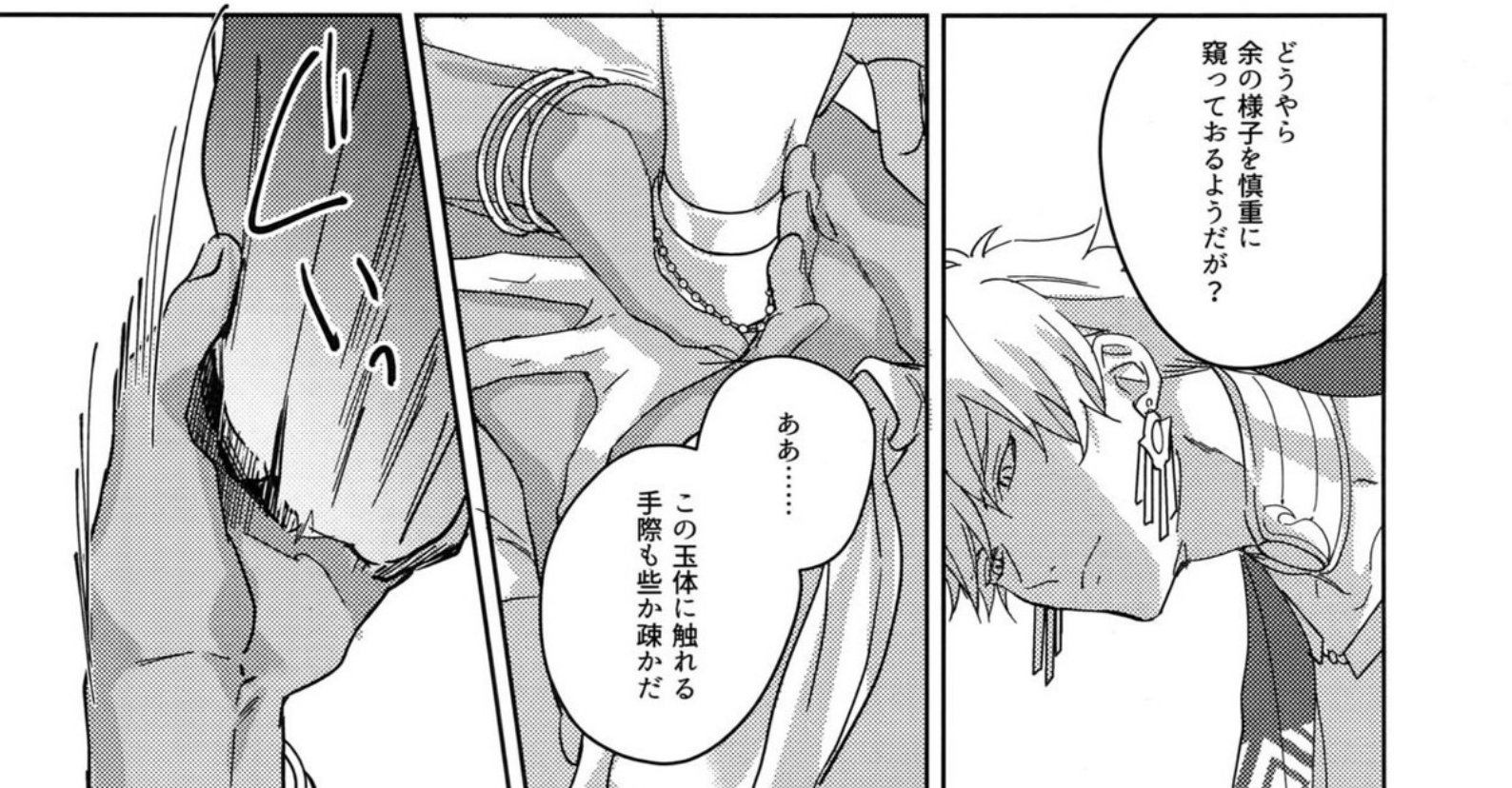
っ…よい

そのまま続けよ


フぷ
フぷぷ…
カルデアに属する英霊特有の器官――
生身の感覚ではないが
これはまた……
ぴくん
くに
ぐにっ
妙な――……
は……
……。
やはり感度があるのだろう
やみくもに虚勢を張るな
こうして容易く伏線を回収するだけでは面白味がない







そして
何よりも……

くにっ

寵愛を與うべき王が
身を委ねては――……

順調に事が運ぶなぁ？
太陽の

ぴく

？……

フハ

やはり此度の
貴様には慣れぬ

どうやら
余の様子を慎重に
窺っておるようだが？

ああ……

この玉体に触れる
手際も些か疎かだ

ぐいっ


ぷく…
何を
企んでいる
黄金(ギルガメッシュ)の


それを
自ずと見出し
慚愧(ざんき)に堪えない面を
曝け出した時こそが
至高の愉しみ
ではあるが——




……


ふふふ
そうでなくてはな
ある程度
警戒はしておけよ
太陽の
何を
ニヤついておる…


我(オレ)も
與える者(王)である
貴様はそれを
分かった上で
我(オレ)を煽っておるの
であろう?


與える?
……ああ
貴様は

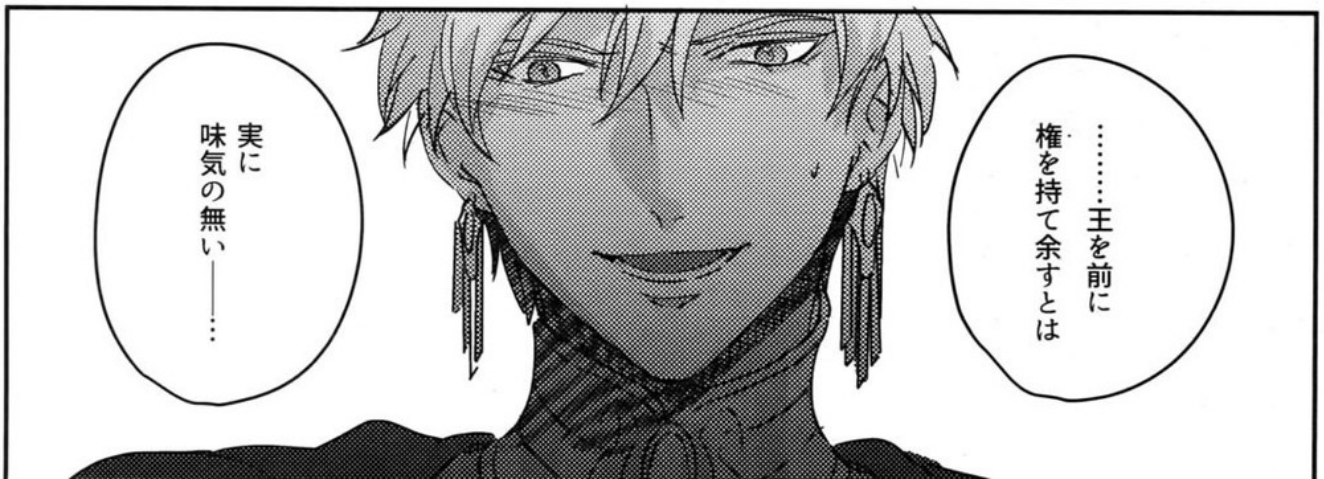

純粋無垢に
穢れを
もたら――…
――
……
寄るな
……
ふぃっ



何を怖気ついておる
言ったろう事が運ぶと
ジャラッ
ギチ…
なっ……
ッ
貴、様――
……？
ゆるっ…


王との色事は
張り合ってこそ
興が乗るという
もの…と
貴様もそれを
好んでおるはずだが
そのタイミングと
余裕を失ったようだな
そら
解けるであろう
この程度
もはや抵抗すら
儘ならぬほどの
恥辱であるか？


ッ……
ハァ…


……王を前に
権を持て余すとは
実に
味気の無い――…


権とは
なんのことだ
主導権か
それとも
よもや――……
？……
ろいっ
逃げるな
こぉら
！
じぃっ



すっ

はッ…

ぎっ…

う

ビッ……!!

ビッ

ッ……!

ビっ

ビっ

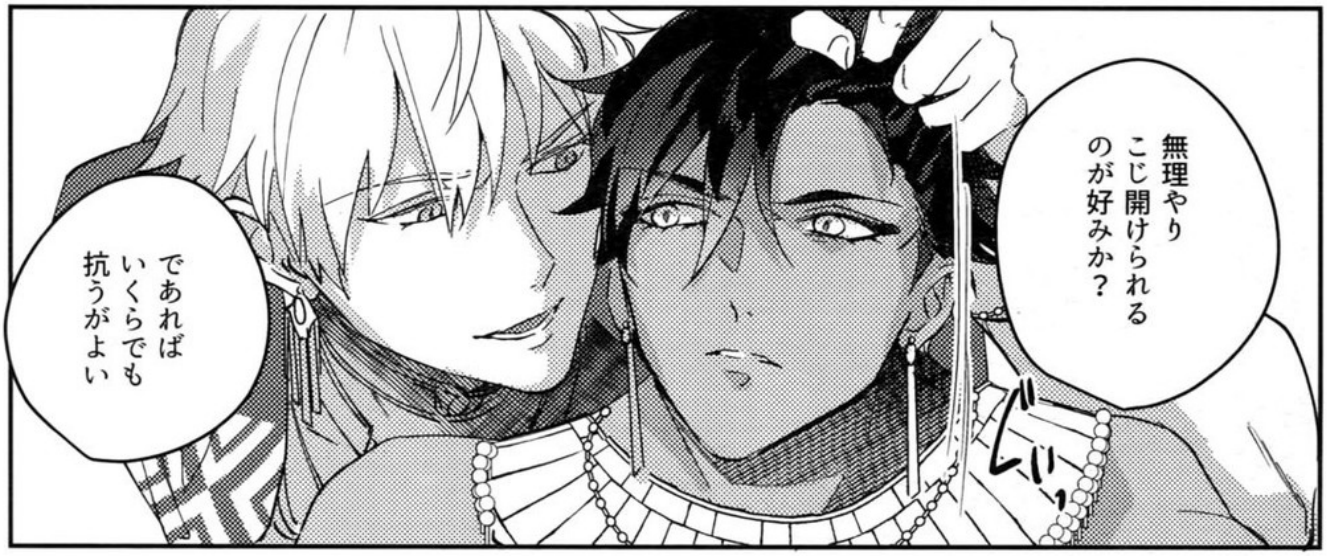


フハハ
先程の施しがまるで無駄よ
ガチ
ガチ
そんなに締め付けるな
貴、様ッ…やはり
今までの振る舞いは芝居に過ぎなかったとッ…！
何の話をしておるのだ？
ああ、流石に穴の中は滑りが悪いな
ガチ
ガチ
ずっ
ずん
ぐ…
うッ
これでは鍵を回せまい



其処には確かに
ッ…あ
はっ
忌まわしき王の手により施された感覚がある
ガチ
ぐっ
痛感が
圧迫感が
不快感が
そして何よりも性感が――……
ぐッ…！
ええい厭わしい…！
疾く済ませぬか！


貴様がこの情勢を
受け容れぬ限り
事は済ませられぬ
潜在する敵意を
顕わにしては
かえって藪蛇にも
なろうとも
ああそれとも
!!


無理やり
こじ開けられる
のが好みか？
であれば
いくらでも
抗うがよい


よいか
相手は
この、我(オレ)だ
貴様は何を
心得て王に
身を委ねるか


しかし――……
さら
我(オレ)は貴様に
殊更な被虐願望が
あるとは思えん
ッ……おのれ
…おの、
れッ……
しゃ


ドク
ドク
カチャ
己を
寵愛を與える王と
称えながら
此度は
純粋無垢の
乙女役と自認し
何事も色事と
捉えては
品位に欠けるなぁ
太陽の？
あろうことか——


この我(オレ)に
その醜態を
曝すとは
淫乱めが


ジュウウウウウウ
ぎゃあああ!
うぉ
ガク
あ
ぐ、、ぅッ


ああ――……
斯様にそそられる音を上げられては
蹂躙せずにはいられん

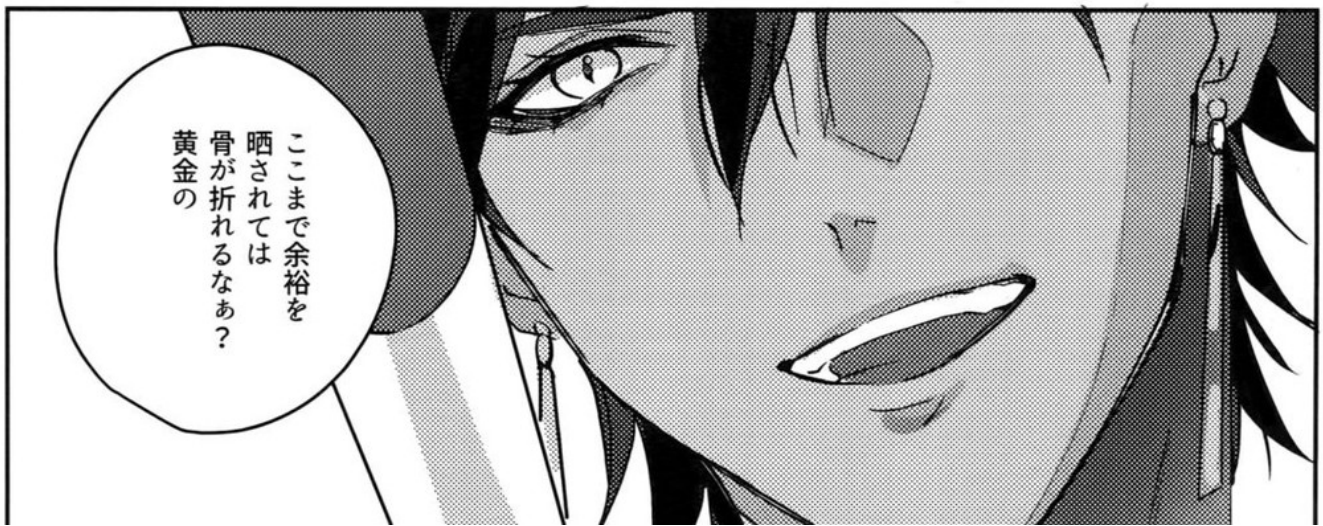

黄金の


ぐいっ


鎌をかけるのも
その辺にしたら
どうだ
斯様に大仰な
素振りであると
興が醒める
余は人を誑かすのは
得意とせん
…いいや、
飽きるのだ
ああそれとも
復習(さらい)が要るか？
酒の酔いに免じて
王の摂理を諭そう


毒牙にかかる者とは
凡夫 謂わば弱者
王の勤めである
蹂躙とは
その弱者が
対象であろう
余は
穢れを知らぬ
乙女でも
手に余る小さき器
でもあるまい
喩え貴様が
天に比肩せし王であれ
余を贓るには能わぬよ


何しろ余は
森羅万象を司る
王の中の王
神王
オジマンディアスだ


ここまで余裕を
晒されては
骨が折れるなぁ？
黄金の


……ハ！
本領を発揮するのが遅い
我もこの一芝居には飽いていたところよ
長蛇を逸する存在であるからこそ貴様は我を倦ませぬ
故に
わかるな？
我は貴様に印を刻むことを許したのだ
是に相応しき器でなければ王の力は揮えまい
フフ
此度はやたらと口実が多い
暴威強奪といった卑しい趣より余の強さに圧倒される趣を好むか
酔狂……否
この神たる余を前にしておるのだ——…


正善へと
矯められて当然か
ん……
はっ……
余の威光を
拝みたいのであれば
端からそう申せ
しかし
その図々しさを
余は愛らしく思う

……よいよい
我(オレ)は
己が認めた強さを
持つ者の僭越(せんえつ)には
寛大よ

精々我の力を象った
紋章に制されぬよう
励めよ
太陽――

ゴッ

チ――ン

……

……

――さてここからが本番だ

ハハハ

……。

色事まがいに
興が乗っては
貴様も然して
余と変わらぬさ


王の艶美を
前してお預けとは
苦しかろう？
そら
真に玩弄してみせよ
但し
王として
優勢をせしめんとする
貴様の姿が卑陋なもの
であれば
この力を以て
灼きつくしてくれる
たわけ
相手は王だ
貴様には常
警戒はしておけ…
という忠告が必要な
ようだな？
忠告などよい
告げるなら
警告を、だ

では告げる

王として
身の程を弁えよ

貴様の同盟相手として
真の失態なぞ
我は決して許さぬ

身の程を弁えて
天へと手を
伸ばさんとするか

佳い

今までの
不敬も含め
王者の気風に
免じて許す

暴君との
情事とは

多少の慄きを
感じ、與えるからこそ
王としての血が騒ぐ



あッ…

ん

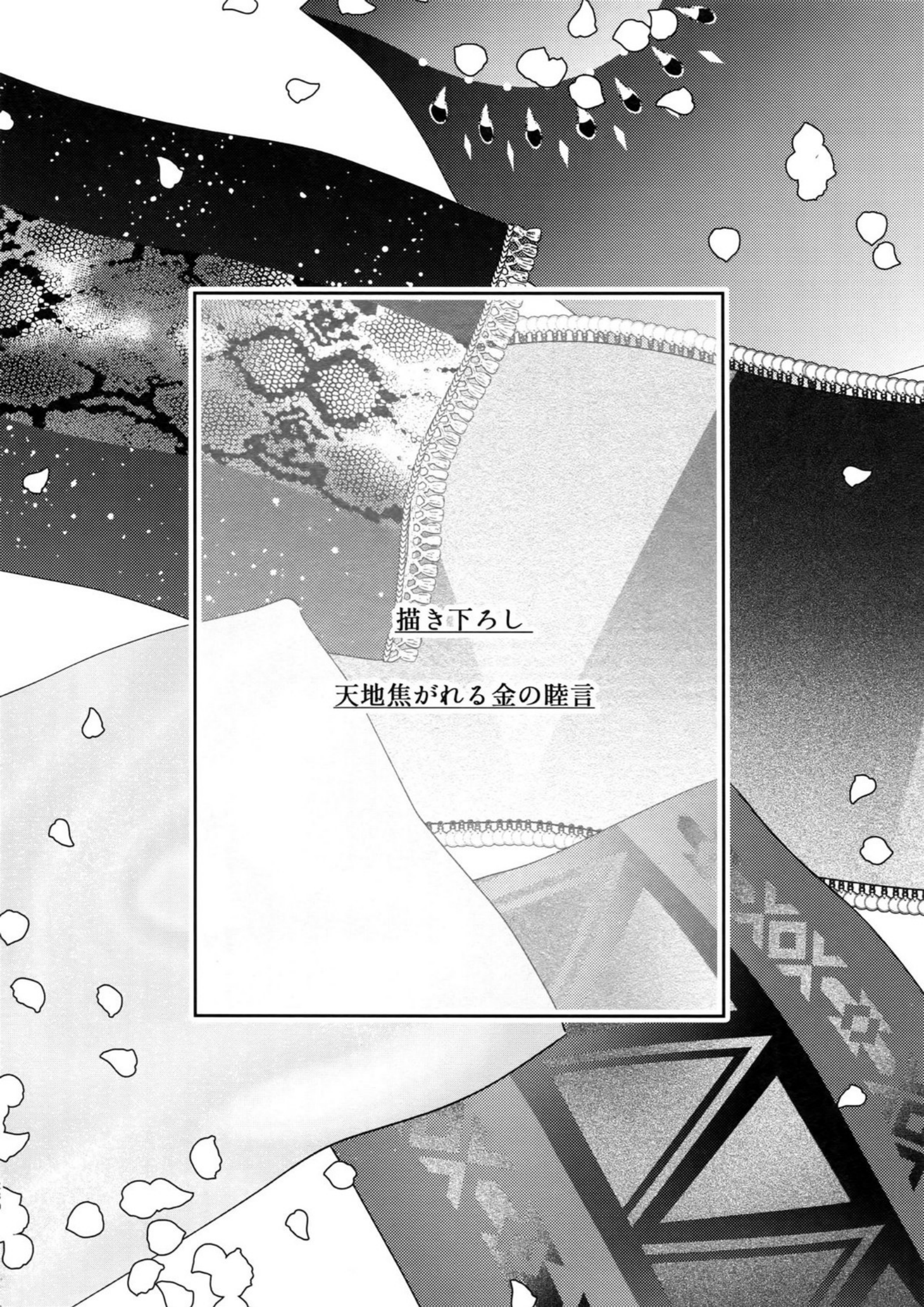
喩えそれが
己の趣に反する
ものだとしても

この王であれば
悪くはない



このッッ　こやつめ…ハハハ…こやつ…

とんでもない指令紋章が出たし真っ先にうちのファラオに刻んだぞ！といった記念に発行したものでした。
自分が優勢な状態であれば処女を奪われても何ともないファラオですが優勢を奪われるきっかけを自分で作ってしまったので
逃げ腰に。でも強い自分が好きな相手のことは存分に知っているので一瞬で立ち直るという。
英雄王は英雄王でその器でこそ自分の力を揮える対象だと捉えさせてるので珍しくすれ違わなかったな…と思いつつ描写しました。
考えてることがシンプルじゃない古代王達好きです。


描き下ろし
天地焦がれる金の睦言

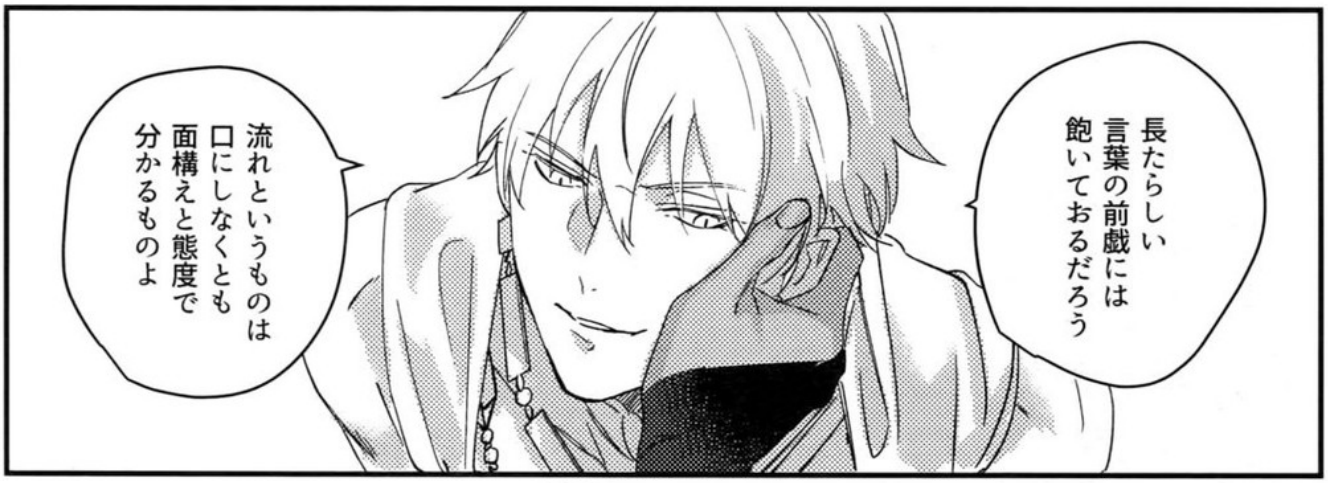

毒ともいえる
美酒に酔い
神たる余を
丸呑みにせんと
する威勢
王の舌に相応しい
神酒を振る舞い
灼熱の太陽にも
負けぬ耀きを発し
趣に反し王の驕傲を
好むといった
お前の酔狂さ――…
如何なる時も
それは余を飽き
させなかった
やはりこの世全ての
悦を知る者との戯れとは
一味違うものだ


ハッ
語らい早々
皮肉か？
この年月で
お前も随分と
生意気になった
ものよ
おや
貴様はその方が
興が乗るのでは
なかったか？
切り替えが
早いな
新手の誘い…
いや
おねだりか？
ふッ


ん……
ふ
む
んッ
ちゅ
ン
く
ちゅ
ッ
はぁッ…
ぷちゃ…


ん
もご
もご
フム…
常より些か
性急ではないか


はッ…


長たらしい
言葉の前戯には
飽いておるだろう
流れというものは
口にしなくとも
面構えと態度で
分かるものよ


その眼……
…勝手に我が意を
覗かんとするか
不敬である
愛い
愛い
言葉を読まれる前に
口に出そうと常
睦言を盛っていた
のも視えおったぞ
この……
だが此度は
それとは(千里眼)
無縁よ

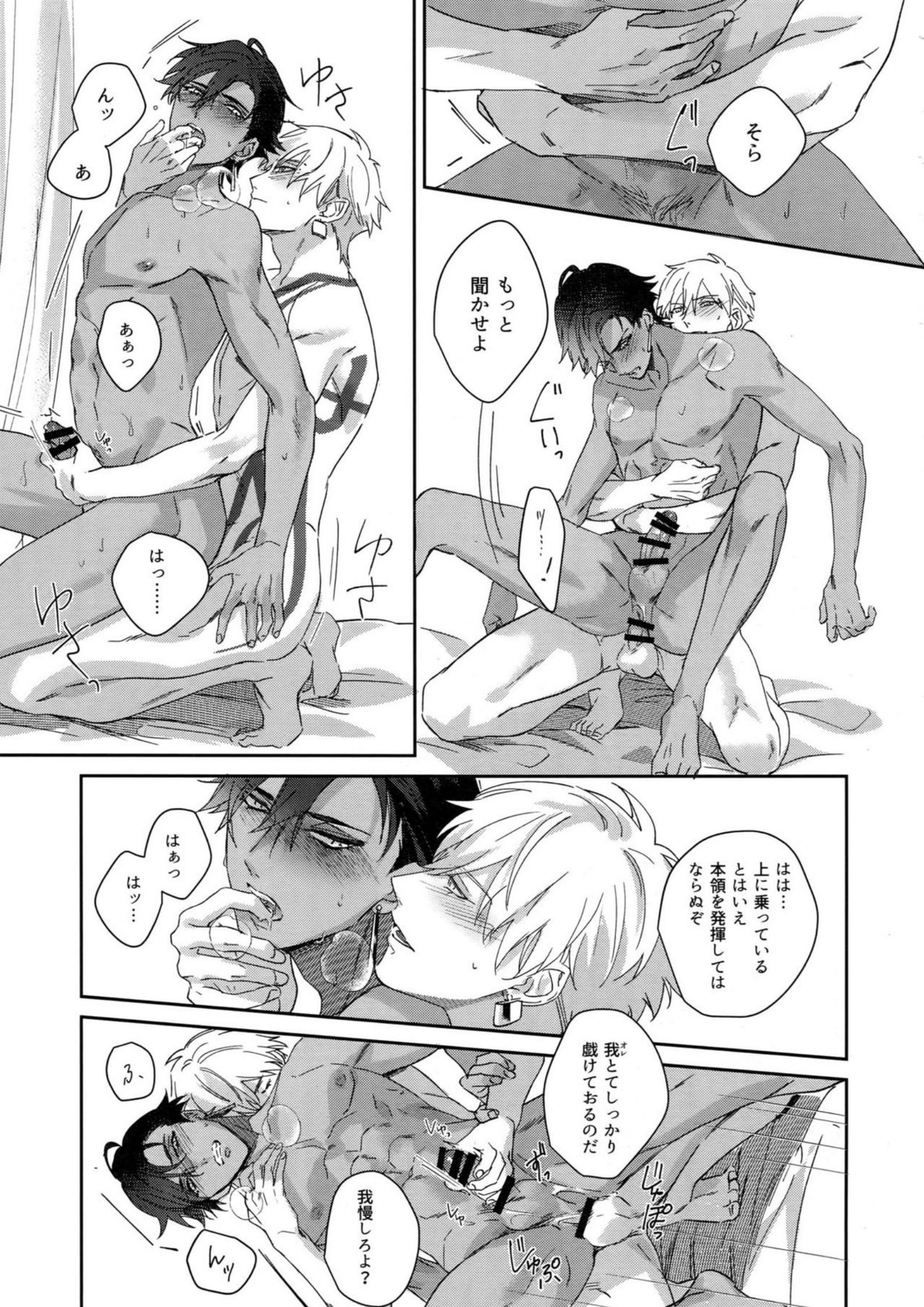

ん
…それは
どういう……
ツ
……早速
噛みつくか
な
貴様の不興を買った
覚えはないのだが――
疵を貰う程
かぷ…


我が常
蹂躙を愉しむ趣に
あると思ったか
……。
ぽかん
何を
驚いている
今宵の酒は
一段と味が濃い
酔いに免じて
特別に
其方を
愉しませて
やろうではないか
そなた
そなた
そなた…


敬意を持ち
余に尽くした
ところで
貴様の蒐集は
果たされ——
……ツハ
徒(いたずら)な企みはよせ


太陽の…お前は
この場において
些か頭が固い
色事の全てが
博戯というワケ
ではなかろう
此度ばかりは
斯様な自負を忘れ
今までにない
戯れを堪能せよ
ごっこ遊び…
というヤツさ
無論
我(オレ)も狂乱する
つもりで居る


ふ
んッ
んぅ
く
ぅ
ッ
んんッ
♥
はっ……
太陽の……
随分と…はは…
佳いみたいだな
甘い声が
漏れておるわ
はっ
んっ…



そら
ぐっ
もっと聞かせよ
ぐいっ
ッ…！
ゆさ
んッ
あ
あぁっ
はっ……
ゆさ
ゆさっ
はは…上に乗っているとはいえ本領を発揮してはならぬぞ
はぁっ
はッ…
我とてしっかり戯けておるのだ
ふ、
我慢しろよ？
んッ
ずっ
じゅぽっ
じゅぷ、



あッ
はぁっ
ずっ
ぬぷっ
ぬるっ
たんっ
きゅうっ
んうッ
これは…何だ
ゆさっ
あぁ…
う
はッ
この暴君から施されるとは思えぬ
ゆさ
ぱちゅ
しゅっ
ぱちゅん
魔性とも言わんばかりの
酷い甘さだ――
ひ
うッ
あ…♥
ガク
!
ガクンッ
ほう…果てたか
とぷっ
どく…



はーっ
はーっ
しかし勢いが足らんな？
些か緩過ぎたようだ
ぽす
すッ
ッ…
だがこんなものでは足りぬだろう
あ
ぐっ…
ッく
ン
うッぁ…
ゆさ
ゆさっ
もう少し早くしても？
はぁ…
っ？


きょ…
許可など
要ら、ぬ
だが
許すッ……
好きに、しろ
キッ
あ…
妙な気分だ
はまッ…
ぱちゅ
ぱちゅ
確かにこの男の
蒐集は見え透いて
いる筈だが
煮えたぎる甘さを
呈されるばかり
調子が狂う
あ
う
ぱちゅ
ぱん
ッ……
よもやこれが
本来の手際
たるものか
褒めて遣わす
余地も無い
ふっ
ふーっ


あっ
あぁッ…！
あッ…
んっ
う
はっ
そ、こッ……
ッ
はぁっ
んっ
んッ、う
っ
ンっ……！
んうッ


はぁッ…
は……
おう、ごんの……
もう
よい…！
ッ


ち、が
う
んぁっ……


もうよい
だと？
愛いらしい
出様とは
裏腹なことを
口にする
はッ


ああそれとも…
湿深くされるのは
得意ではないか
違う
余が焦がれる
王の情とは
斯様に柔い
蚕食ではなく
ならば情夫に
甘える牝猫が如く
強請るがいい
その甘く爛れた
言の葉を聞かせよ
さあ
どうされたい？
もっと
虎視眈々と
全てをも
奪わんとする……
おッ

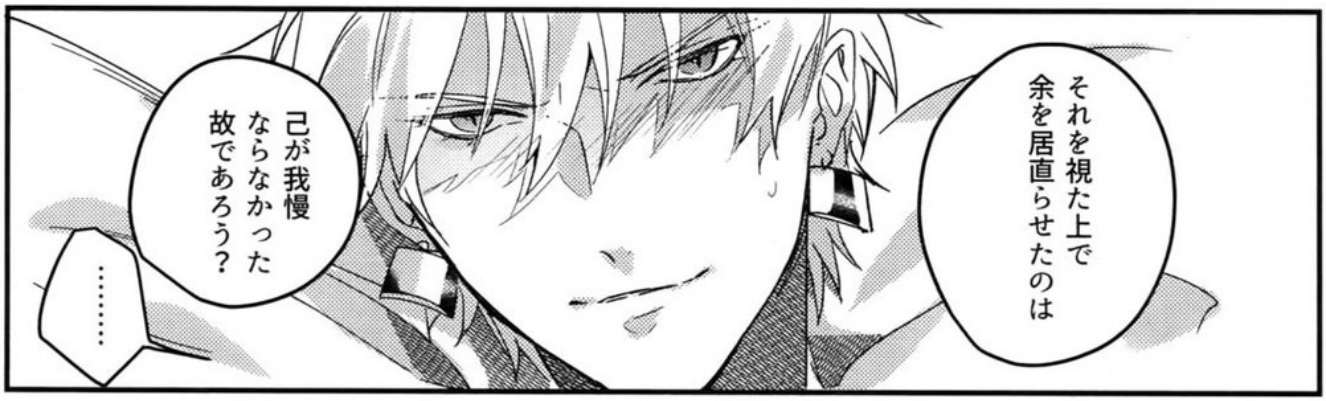

ラー――…
カサ


すると……
……
ギシッ
ドサッ


――なんだ
もう終いか
睨めっこが弱いな
太陽の？


ハッ
先に
兜を脱いだのは
貴様であろう


真似事とはいえ
余は貴様に
閨中(けいちゅう)において
その愛称(な)を呼ぶ
ことは決して
許してなどおらぬ
すりっ…
同盟相手なら
猶のこと







それを視た上で余を居直らせたのは

己が我慢ならなかった故であろう？

……

数多の者を心から寵しながら親愛を選ばんとするとは

けしからん男よ…

その対象に成りかねぬ意外と気の合う相手に

何か不満でも？

己惚れるな

ッ……

ずっ…

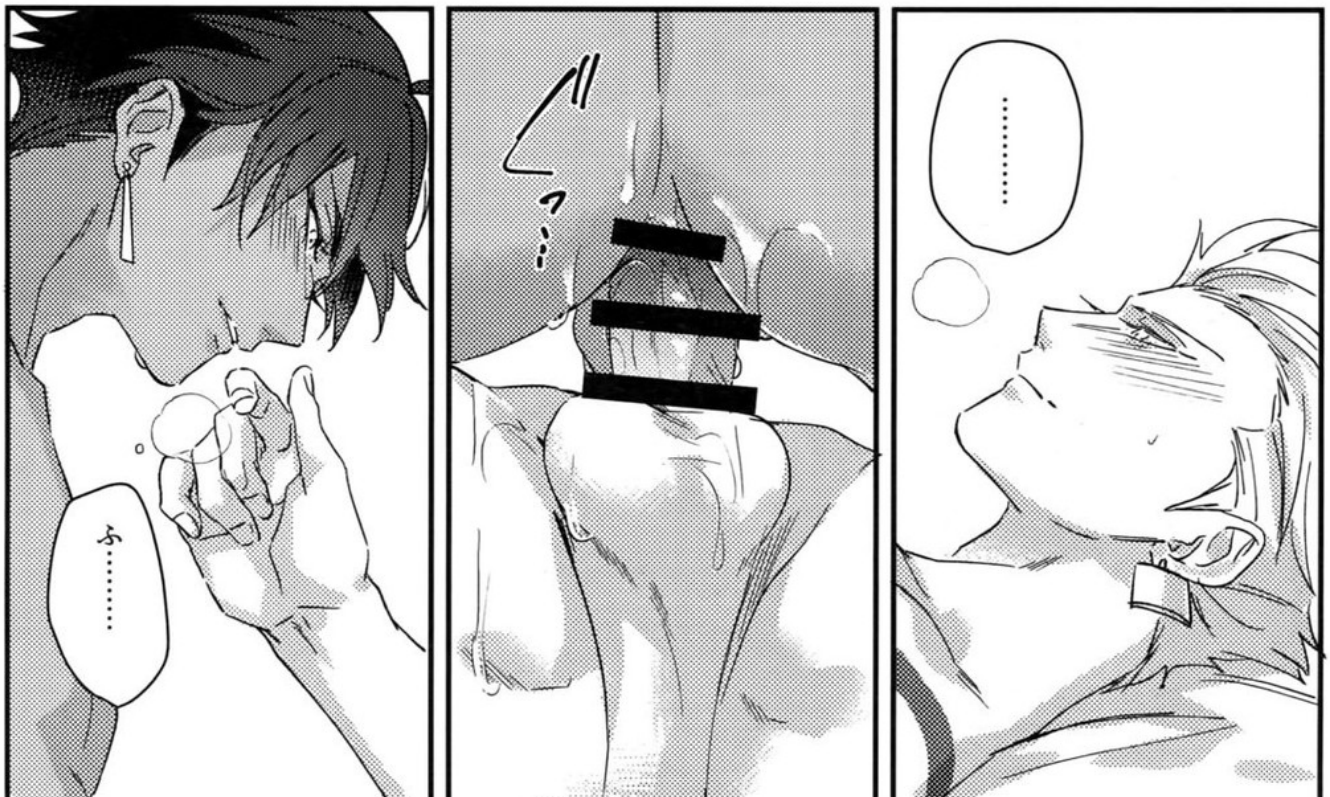
ふっ…

にゅぷぷ


フハハハハハ
ふはっ
ははは……
くッ
ふふふ…
とんだ茶番よなぁ！
迚も斯くても我らでは闇相撲になる事くらい分かりきっていたろうに！
常とは違う勢いづけよ興が乗ったろう！
フフッそうさな…
いつにも増して
きち…
ビクッ
搾り甲斐のある猛りよ


ハッ！
俗な口を叩くのも
今の内よ
言葉の綾とは
言わずに
ただ一言
欲しい、と
寄越す貴様も
見物(みもの)だと
思うのだがな


フン
それは貴様の
手際次第では
あるのだが…


……
ふ……





ずちゅっ…
ばちゅっ
おッ
は
ははッ…！
はぁッ
驚いたっ
はっ
暫く入れ詰めでいたにも関わらず未だにっ耐えんとするか
あッ
ぱんっ
ずっ
ぱんっ
じゅぷ
じちゅ
ぱんっ
余はっ勝負所にて
三擦り半で果てる貴様を宥めるつもりでおったわ
じゅぷ
ずぽっ
くッ…
ずんっ
イラッ…
ははははっ


ぐッ
はぁっ
遠まわしのおねだりだな？
諄いわ！
この眼がある限り口にせずともそれに応えてやるというものの……
貴様はとことん「待て」が出来んのだなぁ！
あぁッ!!
さて我(オレ)の手際が如何、だって？
それ以前に貴様…
はッ
ん
此度は特に素直ではないか


そらッ
待ち侘びたものだ
最奥にたっぷりくれてやるっ！
うッ
あ、あぁッ——！


ッ……
はぁッ
は、あッ…
ぶるっ
ぴゅく。
ぴゅく。
はッ
はッ
おう、
ごんッ…の
ン…
ちゅっ
ちゅっ
んぅ
ふ
……満足したか？
はぁ…
ぷはっ
んぁっ……
ずるっ
フフ……
やはり…こうでなくてはな
今宵は存分に魔力の質が良い
はぁ
はぁ
捻ってこそ実りがあるというものよ


黄金の
余が貴様を
殊更に煽るには
厳密な理由が
あるぞ
言ったろう？
搾り甲斐があると
ごそ
こうして
驕り高ぶった
貴様の魔力とは
乙な味だ
ピク
ぺろ
……正直
心底たまらぬ
はむ


ムラァ…


ふ……
……。
ムッ
またぞろ
勢いを増したぞ
しゅっ


……
ではいくらでも
そうすればいいさ
貴様を満たす
魔力なら
持て余しておる
優勢を取った
つもりか？
色付けをされて
いるのは貴様で
あろうに
思い上がるなよ
次はその口が曲がる程の
甘い美酒を注いでやろうか

Thank you for reading!



タカ氏です。本をお手に取ってくださりありがとうございました！
描き下ろし含めこのようなページ数になりましたが2018年これだけギルオジ描いたんだな…！と我ながら感心してしまいました笑
描き下ろしの話は今までにない方法で愉しいことしようといった内容だったのですが結局のところ今まで通りにやっても
お互い自分に向ける熾盛に飽きていることなんてないし寧ろ大好きなので……ギルガメッシュが途中で痺れを切らせた流れでした。
自分から仕掛けておいて欲望の為に沙汰止みしてしまうのは格好がつかないのであえてオジマンディアスから切らせる形でラーメス呼びさせました。
（オジマンがラーメス呼びを許せる相手は選んでたらいいなという設定です）
でもそんなオジマンディアスにとっての僭越も彼がハイハイわかったわかったで済ませられるのは身を重ね続ける中で自分を求むギルガメッシュのことをよく知っていっているからなんです…そしてそんなギルガメッシュの相手をするのが大好きなので割と満更でも無いという。
再録をもっての描き下ろしになりますので楽しんでいただけたら幸いです。

ご感想等ございましたら
こちらのQRコード
またはURLからどうぞ！励みになります。
https://odaibako.net/u/Bustersiri

それでは最後までご覧いただきありがとうございました。

tkciao / タカ氏 twitter▷@C_hkt　Pixiv▷id=2593590　Mail▷tkciao.tkc@gmail.com



Re:tkciao

天地焦がれる金の睦言

神に映えるは毒の美酒

毒牙を魅する猫の舌

神酒に別腸あり

盟主在りて美観の夏

疑似的ロストバージン 王の器

描き下ろし